

全船協

会報 151号 2023年1月 新春号



帆船日本丸 公益財団法人帆船日本丸記念財団 提供



一般社団法人 **全日本船舶職員協会**

JAPAN MARITIME OFFICERS' ASSOCIATION

無料船員職業紹介所(国土交通省許可第8号)

URL <https://www.zensenkyo.com>

山友汽船株式会社

代表取締役社長 望月 正信

〒650-0015 神戸市中央区多聞通2丁目1番1号
TEL (078) 371-5505 FAX (078) 371-5520
Email: into@sanyukisen.co.jp

B&S ENTERPRISE

株式会社ビーアンドエス・エンタープライズ
TEL (078) 361-6971 FAX (078) 361-6972
Email: info@bands-k.com



北星海運株式会社

代表取締役社長 加藤 由起夫

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル6階
電話 (03) 3275-5520(代) FAX (03) 3275-5575

一般社団法人 日本船長協会

会長 中村 紳也

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3265-6641
FAX (03) 3265-8710
<http://www.captain.or.jp>

一般社団法人 海洋会

会長 平塚 惣一

〒102-0083 東京都千代田区麹町4丁目5番地
(海事センタービル6階)

電話 (03) 3262-8632
FAX (03) 3262-6909



一般社団法人

日本船舶機関士協会

会長 掛谷 茂

〒102-0083 東京都千代田区麹町四丁目5番地
(海事センタービル5階)

電話 (03) 3264-2518
E-mail: me-honbu@marine-engineer.or.jp
URL <http://www.marine-engineer.or.jp>

人と海に未来を

公益社団法人 日本海難防止協会

会長 内藤 忠顕

〒151-0062 東京都渋谷区元代々木町33-8
元代々木サンサンビル3F

電話 (03) 5761-6050 / E-mail: 2231jams@nikkaibo.or.jp
<https://www.nikkaibo.or.jp>

日本海事新聞

THE JAPAN MARITIME DAILY

試読・購読のお申し込みは

電話 **03-3436-3223** まで

<https://www.jmd.co.jp/>

海上の友

船員と船員家庭のタブロイド版新聞 毎月1日発行
年間購読料 本体価格(5,916円) + 税 送料別

お申し込み
お問い合わせ (公財)日本海事広報協会

〒104-0043 東京都中央区湊2-12-6
電話 (03) 3552-5034 FAX (03) 3553-6580

・海技教育支援 ・奨学金
・帆船「海王丸」体験航海・海洋教室 等

公益財団法人 海技教育財団

会長 池田 潤一郎

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-4

電話 (03) 3288-0991 <https://macf.jp>

ラッシング・チョッキング資材の総合サービス

株式会社 ウシオ

100th
ANNIVERSARY
since 1920

代表取締役社長 牛尾 雅英

〒652-0813 兵庫県神戸市兵庫区兵庫町2丁目3番27号

電話 (078) 652-2065 / FAX (078) 652-2070

<http://ushio-kk.co.jp>

東京/横浜/常陸那珂/名古屋/大阪/和歌山/加古川/門司/福岡/香港

目 次

表紙	… 帆船日本丸 公益財団法人帆船日本丸記念財団		
巻頭言	新大島丸進水式.....代表理事・会長 広重康成	… 2	
第4代「大島丸」の建造報告			
大島丸 命名・進水式の挙行			
可変ピッチプロペラ(CPP)工場検査立会報告大島商船高等専門学校 商船学科長 千葉元	… 4	
主発電機関工場検査報告大島商船高等専門学校 商船学科 山口康太	… 7	
仮軸芯・本軸心検査並びにドラフト及びキール見透し検査、乾舷標取付位置確認検査立会報告大島商船高等専門学校 商船学科 木村安宏	… 9	
船底センサ取付検査立会報告大島商船高等専門学校 商船学科実習生 芦田真光	…11	
進水式前外装最終検査立会及び進水式命名報告	..大島商船高等専門学校 電子・情報システム工学専攻科 三浦聖	…12	
最終検査立会及び進水式命名報告	..大島商船高等専門学校 電子・情報システム工学専攻科 吉村勇輝	…14	
新大島丸 命名・進水式報告	..大島商船高等専門学校 電子・情報システム工学専攻科 佐藤次郎	…16	
大島商船高専新練習船「大島丸」進水式・大島商船高専視察.....	参議院議員 赤池誠章	…17	
B号航海記(第6回)内海水先区水先人会水先人 会員 栗阪肇	…19	
咸臨丸調査の思い出.....	LNG マリンコンサルタントオフィス 代表 藤原隆征	…24	
北から南から			
富山高等専門学校	27	
鳥羽商船高等専門学校	33	
広島商船高等専門学校	38	
大島商船高等専門学校	40	
弓削商船高等専門学校	45	
海技教育機構	49	
お知らせ 第6回高専・海事教育フォーラム.....	事務局	…52	
本部・支部だより	事務局	…54
賛助会員名簿	事務局	…55
会費納入者名簿・2022年度新卒者入会名簿	事務局	…56
2022年度新卒者入会名簿(新入学含む)	事務局	…59
時事寸評・表紙写真解説・編集後記	事務局	…60

○ 巻頭言 ○

進水式

代表理事・会長 広重康成



皆様、初春のお喜びを申し上げます。

まずは昨年10月にめでたく進水式を迎えることができました新・大島丸のことを述べさせていただきます。

2022年（令和4年）10月13日、文句なしの快晴となったその日、私たち関係者は三菱造船下関工場に集結し満潮となる時刻を今や遅しと待ちわびたのでした。

ご存知の通り、三菱下関造船所は武蔵・小次郎の決戦の舞台として有名な『巖流島』のすぐそばに位置しています。全長200mまでの、どちらかというと小型中型に絞った造船所であり、巡視艇やフェリー、海底ケーブル敷設船という言わば特殊船舶が主力の造船所です。

驚いたのは現在の大島丸もここで29年前に生まれていたのです。

進水式会場に案内されると既に渠底にはヘルメットに作業服の三菱ドックの皆さんが、スタンバイされていました。規則正しい指差し呼称により、準備が一つ一つ進められていきます。

国歌が演奏されました。国立高等専門学校機構谷口功理事長により「船名は大島丸」と声高らかに命名されました。と、同時に船首部分の紅白の垂れ幕がさっと開き両舷に大島丸の船名をはっきりと読み取ることができました。

続いて、同じく高専機構の大内あづさ事務局長により支綱（しこう）切断です。シルバーに輝く斧が真っ直ぐに振り下ろされると船体がすすっ



と動き、軍艦マーチが響き渡りました。くす玉が開き、花火が鳴り、五色の風船があたかも伝書鳩のように風に舞いながら船体を囲むよう大空に吸い込まれていきます。大島丸の真っ白な船体が空の青と関門海峡の海面の青を柔らかく纏うかのように後進しながら、私を見てと言わんばかりに輝いて見えました。

この新しい大島丸は4世になります。長さ56.3m、現在の大島丸より15mも長くなりました。幅10.6m、3m広くなりました。深さ5.8m、2.3m深くなりました。総トン数370トン、140トン増えました。それもそのはず、男女の確立した居住設備は当然のこととして、国土強靱化対策と災害支援にも対応できる設備を備えるわけですからコロナウイルスのみならず、今後の感染症対策も考えなければなりません。病室の独

立換気や学生用寝室の個室化が配慮されました。災害支援には支援物資が搭載できるスペースが必要です。その揚降設備も備えます。

また、国内初の電気推進方式を採用したりリチウムイオンバッテリーを搭載しており、発電機関との並列運転による省エネ、接岸時のバッテリー単独給電による環境負荷の低減、船内騒音や振動の低減による居住環境の向上が配慮されています。利便性とセキュリティにも配慮されていて、女子学生専用エリアがありますし、趣向を凝らした船内照明、内装デザイン、快適な学習環境と居住環境が充実しています。

災害時における船外給水、給電、支援物資輸送、居住設備の提供もできるように支援船としての機能も充実しているのです。東北大震災では陸路が完全に断たれてしまい、現地の実態把握には船で海から視察する方法が取られました。海岸線が長い我が国ですから当然そうなります。災害は起きないことが一番ですが、起きたとしてもこれだけの設備を持つ大島丸であれば十分対応できることでしょう。

新大島丸が誕生するまで紆余曲折がありました。いいえ、商船高専存続の危機があったと申し上げるのが正しいのです。

2014年3月から商船高専の在り方検討WG（ワーキンググループ）が立ち上げられ明らかに現在の5校商船高専を2校に減らし、定員200名を120名にする案が水面下で着実に進められている実態がありました。これに待ったを掛けたのが、全船協の私の前任者、酒迎会長です。

5校商船高専商船学科の存続危機を同窓会に緊急アピールを行い地元の周防大島町長と共に猛然とロビー活動を展開しました。明確に「プロジェクト200」と称する全船協および5校商船高専の同窓会長で構成されるチームを立ち上げました。既に平成25年4月に閣議決定されていた「海洋基本計画」において「日本人外航船員の数を平成20年度から10年間で1.5倍に増加させるための取り組みを引き続き促す」と規定されているにもかかわらず、高専の高度化再編の議論の中で商船学科の縮小を検討されているこ

とは国策に反することだ、と真正面からぶつかって行ったのです。

私は2019年9月から大島商船高専の同窓会長に就いていたのですが、この年の11月6日「商船高専5新造練習船建造期成決起集会」が自由民主党本部901号大会議室にて開催され出席しました。

5校それぞれ地元の町長や市長を旗頭に据えて同窓会長はもちろん学校長も参加して練習船の必要性を訴えたのです。

潮目が変わりました。この瞬間に商船学科は縮小・統合と言われていたのですが大きく流れが変わったのです。

そして、この歴史的な総決起集会の場を実に鮮やかに60分間の制限された時間内に無駄なく正確に、私たちの意見を潤沢に聴き取って頂き、満足できる簡潔明瞭な要望内容に収められたのは赤池誠章（あかいけまさあき）参議院議員（比例代表全国区）でした。山梨県出身、現在は内閣府副大臣をされています。

今回の進水式の間でも祝辞を述べて頂きました。その中で「この大島丸が誕生できたのは全船協の前の会長である酒迎さんの熱意によるものです」というお言葉には感動いたしました。海事行政に詳しい方からのストレートな祝意に、後を引き継ぐ者として嬉しくまた身の引き締まる思いで聴いていました。

さあ、次は弓削丸です。次いで鳥羽丸、第4船目が富山の若潮丸。5船目に広島丸と続きます。

我が国の貿易流通量は船舶輸送に依存する割合は99.6%です。先の東北大震災では外国人船員が日本船舶から多数離脱したことはよく知られている事実です。

5校商船高専に5隻の校内練習船が代替えされれば、我が国の外航内航を問わず海運業を支える後輩諸君が育ちます。食料自給率38%の我が国に必要な食料を運んでくれるのは彼らです。LNG および石油といった生活エネルギーを100%輸入に頼っている我が国に日本人船員は絶対に必要不可欠なのです。全船協は我が国の海運業を支えるために全力で取り組みます。本年も何卒よろしく願い申し上げます。

第4代「大島丸」の命名・進水式

大島丸 命名・進水式の挙行(2022年10月13日)

大島商船高等専門学校 商船学科長 千葉 元

これまでに当会報で建造状況の報告をさせて頂いた新・「大島丸」ですが、2022年10月13日に三菱造船株式会社下関江浦工場にて命名・進水式を迎えることができました。

式には、ご来賓及び学校関係者の約140名が参加し、独立行政法人国立高等専門学校機構の谷口功理事長が「大島丸」と命名した後、同機構大内あづさ事務局長が本船の支綱切断を行いました。

現在は同工場内の岸壁に係留を行い、艀装工事と各種機器の試運転及び試験を実施しています。本年12月末には第一回の試運転を行い、3月中旬に竣工し、当校の練習船棧橋にて引き渡しの予定となっております。

本号では、前告のブロック検査立会の報告に続き、各検査立会の状況、学生による命名・進水式の前日の最終検査から当日の式の状況についての見学の報告をご紹介します。



写真1:支綱切断後の海上への滑走



写真2:船台からの滑走後に海上に進水した「大島丸」(この後、艀装岸壁に移動して係留)

第4代「大島丸」の建造報告
可変ピッチプロペラ(CPP)工場検査立会報告(2022年7月5日)
大島商船高等専門学校 商船学科長 千葉 元

大島商船高専の商船学科の千葉です。
新・大島丸搭載予定の可変ピッチプロペラ(CPP)の工場検査立会の報告をさせていただきます。2022年7月5日に、かもめプロペラ株式会社(横浜市戸塚区)様にて、CPPの工場検査が実施されました。この船には、直径2500mmのCPPが搭載されます。工場検査での機器設置状況を、写真1~3に示します。プロペラ自体は非常に高精度な曲線で構成され、また油圧の駆動部も緻密な機器構成であることが、実際に見てよく分かりました。まずは、作動試験が実施されました。これは、ポンプユニットを駆動し、変節装置の作動確認を行う試験です。写真4に示すように、前進~中立~後進と翼角の変化がスムーズに稼働し、また所定の角度に精度良く静定されていることが確認できました。

次に、応急変節確認試験が行われ、ここではソレノイドバルブを手動で操作し、円滑に作動することの確認が行われました。

これら試験では、プロペラ翼角が所定範囲に変化するまでの時間計測と、この動作に対



写真1,2 プロペラの状況 上:正面・下:斜め正面



写真3 CPPの変節装置部



写真4 作動試験における翼角変化の状況(後進 → 中立 → 前進)

する油圧機構の作動状況（油圧・油温・モータ電流等）の確認が行われていました。

動作確認試験の後が、解放検査の準備となり、この間にかもめプロペラ様のプロペラ製造工程の見学をさせて頂きました。

ここで、プロペラ製作は、鑄造を行い、その後仕上げまで行っていく過程で、NC加工機等を活用しながらも、多くの職人芸の手作業に負う所が多いことが分かりました。

また、仕上げ状況の品質管理には、ステレオカメラを利用した 3 次元翼面計測システム等を活用し、非常に高精度で行われていることが分かりました。



写真 5:開放検査の状況

写真 5 には開放検査の様子を示します。ここでも各部品が非常に高精度で製作され、また組み上げられていることが良く分かりました。ここで、かもめプロペラ様と三菱造船の機関担当様とで、油圧機器関連の系統図

について綿密な確認も行われていました。

船橋のレバーを操作すれば、当然のごとくに前後進や船速調整ができると考えていた CPP ですが、この精度と信頼性の維持のため、こうした綿密な工場検査が行われていることは、非常に勉強となりました。

*** その後の CPP の状況について ***

9 月 14 日に三菱造船下関造船所に建造状況確認と検査立合に行った所、CPP が搬入されていて、工場検査来の再会をすることができました。(写真 6)



写真6:CPP 搬入状況(2022.9.14, 右後部は本船のマスト)



写真 7:CPP の船体への挿入(2022.9.22)

そして、同じく 9 月 22 日に造船所を訪れた際には、写真 7 に示すように、プロペラが船体に挿入され、やはり、かもめプロペラ様の製品である、ゲートラダーの取り付けが行われていました。自身が工場検査で携わらせて頂いた物が実際に船に設置されるのは非常に嬉しく感じました。今後の十分な性能発揮と安定稼働を期待しております。 以上

第4代「大島丸」の建造報告

主発電機関工場検査立会報告（2022年7月29日）

大島商船高等専門学校 商船学科 山口 康 太

私は、鳥羽商船高等専門学校の高専第40期生であり、2020年に大島商船高等専門学校商船学科に赴任して熱流体力学・蒸気工学を担当しております。

2022年7月29日にヤンマーパワーテクノロジー株式会社尼崎工場にて、発電機検査が実施され、本校教員として検査に立ち合わせていただきました。

新・大島丸に設置される発電機は3台あり、検査は負荷試験・调速機試験・軸受温度計測・並列運転試験・保護装置試験・ピストン開放検査の順で行われました。



写真1 新大島丸の発電機3台

負荷試験では、25%・50%・75%・100%・110%と徐々に負荷を上げていき、安定した状態となった時の発電機各部のチェックが行われました。

工場の方とともに私も各部のチェックをさせていただき、乗船実習時代の懐かしい気持ちを感じさせていただきました。

発電機関における負荷変動の際は、どうしても周波数と電圧が変動するため、電源を供給している装置を壊さないよう変動幅の上

限が厳しく定められており、負荷変動しても安定した電源供給ができることが求められます。



写真2 負荷試験での各部の検査

调速機試験においては、発電機の負荷を100%から0%、0%から33%、33%から68%、68%から100%へと変化させ、各発電機の負荷変動の際の周波数と電圧、静定までの時間を検査しました。本試験において安定的に電源供給ができることを確認しました。



写真3 制御室内の負荷変動設備及び電圧・周波数確認設備

軸受温度計測では、调速機試験の後に機関を停止して、軸受部の温度を計測し異常がないことを確認しました。発電機停止直後のまだ熱い潤滑油が垂れている中で計測を行い、我々が温度を確認するまで計測を維持していただいた工場の方には尊敬の念を抱きました。



写真 4 軸受温度計測のため開放されたクランクケース



写真 5 保護装置試験時に確認される計測器

並列運転試験においては、各発電機を運転し、順に並列運転にして負荷を変化させながら各部のチェックを行い、問題がないことを確認しました。

保護装置試験においては、過速度になった場合、潤滑油圧力が低下した場合、作動空気圧力が低下した場合、潤滑プライミング圧力異常のそれぞれで保護装置が働くかを確認しました。

ピストン開放検査ではこちらが指定したピストンを抜いていただき、状態を確認しました。ピストンの状態だけでなく、連接棒・クランクピンメタルなど各部の確認をし、異常がないことを確認しました。ピストン頂部を見ると綺麗な模様で煤がついており、内部の爆発状態が良好であることが伺えました。



写真 6 開放したピストン



写真 7 開放したクランクピンメタル

以上、乗船実習の懐かしい気持ちを味わいながらも、知らない技術がたくさん見つかったり、学生当時は気にならなかった疑問点が見つかったりと非常に勉強になることが多い検査でした。

また是非とも参加したら皆様にご報告したいと思います。

第4代「大島丸」の建造報告

新・大島丸 仮軸芯・本軸芯検査、並びにドラフトおよびキール見透し検査、
乾舷標取付位置確認検査立会い報告（2022年8月～9月）

大島商船高等専門学校 商船学科 木村 安 宏

大島商船高等専門学校商船学科の木村です。三菱造船株式会社江浦工場（下関）で建造中の4代目「大島丸」の建造現場立会いの報告をさせていただきます。

2022年8月17日午前6時00分から仮軸芯検査に立会いました。機関室内に減速機はまだ搭載されていない状態で、推進電動機位置にあたるフレーム位置の船体中心線上に基準的（まど：以下同様）Aが取り付けられていました。

軸芯の最前端的になります（図-1）。



図-1 推進電動機台と基準的 A

減速機搭載位置の後方フレーム位置に基準的 B、その後方のフレーム位置に基準的 C、さらに船尾管的 D、E の順に基準的が取り付けられ配置されていました。

仮軸芯時は、基準的 A にトランシットを取付け、基準的 B を見通し、船尾管的 D、E をそれぞれ確認し、仕上代があることを確認しました。

2022年9月7日午前6時00分から本軸芯検査に立会いました（図-2）。当初9月6日に予定されていた本軸芯検査は台風11号の影響で、翌日7日午前6時開始に変

更されたものです。

本軸芯時には減速機が搭載されており、基準的 C が船尾側基準的となります。

基準的 B にトランシットを取付け、基準的 C を見通し、船尾管的 D、E を軸芯上に合わせボーリング作業へと進むこととなります（図-3）。軸芯に関しては、ここまで立会わせていただきました。



図-2 減速機搭載後の基準的 B



図-3 基準的 C から船尾管的を見る

2022年9月30日、午前中は「大島丸」の船内外を見学する機会をいただき、同時並行で実施されていました操舵室防火構造（防熱）検査および内張前検査（図-4）や機関制御

室防火構造(防熱)検査および内張前検査(図-5)、そしてデッキロンジ超音波探傷試験について実施後の結果説明を受けました。



図-4 操舵室防火構造(防熱)



図-5 機関制御室防火構造(防熱)



図-6 船尾管軸封装置組み立て完了後

なお、前日までに船尾管軸封装置組立て作業が完了しており組立完了後の状況を確認することができました(図-6)。午後は、13時00分からドラフトおよびキール見透し検査、続いて乾舷標取付位置確認検査が実施さ



図-7 乾舷標取付位置確認検査



図-8 搭載されたファンネル

れました(図-7)。

ドラフトベースとして設定されたフレーム位置を基準に、長さ、幅、深さおよび船底キール波打ちが JSQS 標準範囲内であることが JG 検査官立会いのもと確認されました。

台風の影響等で現場の建造日程の調整が必要になることはありますが、造船所では進水日を第一の目標として工程を進める努力をされていることが、案内と説明をいただいた現場担当者の方から強い熱意とともに感じられました。図-8に進水に向けて建造作業が進み搭載されたファンネルを示します。

最後になりますが代船建造委員会委員として新造船の建造現場に立会う機会をいただきましたことに心より感謝申し上げ、立会い報告とさせていただきます。

(注：写真等は三菱造船様のご協力と許可を得て使用しています。)

第4代「大島丸」の建造報告

船底センサ取付検査立会報告(2022年9月14日)

大島商船高等専門学校商船学科 実習生 芹田 眞光

皆様初めまして！高専 51 期の芹田です。
9月10日に長期実習を終え練習船を下船、9月末に卒業予定です。このたび、新・大島丸の船底機器取付確認検査が9月14日に実施されこの検査立会をする機会があり、参加させていただきました。

私が立会う2日前に上構アルミ総組ブロックが搭載されており、新・大島丸進水に向けて着々と工事が進んでおりました。進水前の船舶を見るのは初めてであり、その姿は圧巻でした。(写真1)



写真1 ブロック搭載状況
(2022/09/14)



写真2 船底機器取付状況(船底外板外側)

船底機器取付確認検査では、船底機器の取付が適切に実施されたかを確認しました。

それと並行して各船底機器の取付方法や使

用法、整備の方法の説明も受けました。

写真2は船底機器の取付を船底外板の外側から確認しているところです。現・大島丸に搭載されている電磁ログ、ドップラーログ、等の他に新たに ADCP、魚群探知機を搭載し、これまで行なうことができなかった潮流等の調査を大島丸にて行なうことができるようになります。



写真3 船底機器取付状況(船底外板内側)

写真3は船底機器の取付を船底外板内側から確認しているところです。この検査では、進水後に浸水が発生しないよう、溶接の確認や水密方法の確認を行ないました。

検査の立会い後に、作業中の機関制御室や上部構造物内の案内も受けました。内装工事が行われていない船内という、滅多に見ることができない姿を見学でき、とても有意義な経験となりました。

実際にこの船で実習や実験、研究を行なうことは叶いませんので、この船で実習を行なう後輩たちがとてもうらやましく思います。これらの設備が今後の実習で使用されより研究が進むことを祈ります。

第4代「大島丸」の命名・進水式

進水式前外装最終検査立合及び命名・進水式報告

(2022年10月12, 13日)

大島商船高等専門学校 電子・情報システム工学専攻科 三浦 聖

大島商船高等専門学校の電子・情報システム工学専攻科2年の三浦です。

進水式前外装最終検査及び進水式当日の報告をさせていただきます。

まず2022年10月12日に、三菱重工業下関造船所江浦工場にて、進水式前外装最終検査が実施されました。

第3代大島丸の約1.5倍、また普段海の中で見ることのない船底からの様子を見学でき、大きさと迫りに圧巻されました。塗装についても船底から船体側面まで完了しており、ピカピカ姿にも感動を受けました。



写真1：進水式前日



写真2：防蝕亜鉛板

本科の実験実習の腐食に関する授業にて、船体の腐食防止として、防蝕亜鉛板について学びました。今回、船のどこにどのように

いているのかを実際に見ることができ、よい勉強になりました。

船体後方まで綺麗に塗装がされており、金色に輝く可変ピッチプロペラ(CPP)がとても印象的でした。船底から見学した際は、可変ピッチプロペラ(CPP)を360°見られ、大きさ、構造、接続面を詳しく見学することができました。



写真3：船体後方



写真4：第4代大島丸 煙突

船内も見学させていただきました。ほとんど配線が蜘蛛の巣のように張り巡らされている様子で、今しか見ることのできない貴重な姿

でした。操舵室には、一部装置が組み込まれていました。一番印象的であったのは、第3代大島丸の煙突は黄色でしたが、この第4代大島丸は朱色となっていました。大島丸は黄色が印象的であったので、新鮮なイメージを持ちました。

翌日10月13日に、三菱重工業下関造船所江浦工場にて、進水式が実施されました。会場では、軽快な音楽がかかっており、関係者、学校教職員、学生、報道方が今か今かと待ちわびている様子でした。前日の姿とは、また変わっており国旗や校旗、国際信号旗等で華やかにドレスアップされ、目立つ中心にはくす玉があり、船の誕生を盛大にお祝いする準備がされていました。



写真5：進水式当日



写真6：進水作業

式は、まず国歌が流れ、船の命名がされました。その後、進水作業が行われました。鐘の合図と共に、支綱切断と同時に進水できるよう最後の準備が行われました。鐘の合図が

いよいよ進水するのだと感じさせられ周りの空気一気に変わりました。

支綱の切断が行われ、「錨を上げて」の軽らか音楽と共に船はゆっくりと海へ出ていきました。支綱の先についてあるシャンパン瓶も切断と共に無事に割れ、くす玉が開き、火花が上がって大成功の進水となりました。

船全体が海に入ると、赤ちゃんが生まれ産声を上げるように、第4代大島丸は長い大きな汽笛を鳴らしました。支綱の切断と共に船がゆっくり動いていく光景にも感動しましたが、私はこの汽笛が船の誕生をしたということが一番感じられ、とても印象に残りました。

前日の進水式前外装最終検査から進水式当日と2日間、貴重な体験をさせていただき、とても有意義な経験となりました。また、忘れることのない思い出になりました。

船が完成し、大島商船高専に係留した際は、内装も含めまたじっくり見学したいと思いました。



写真7：大島丸進水

第4代「大島丸」の命名・進水式

最終検査立合及び命名・進水式報告（2022年10月12、13日）

大島商船高等専門学校電子・情報システム工学専攻科 吉村 勇輝

大島商船高専、電子・情報システム工学専攻科の吉村です。この度、新・大島丸の立会検査と進水式に参加させていただきました。

進水式を翌日に控えた新・大島丸は、外観塗装が綺麗に施されており、すでに完成しているような雰囲気を放っていました。

（写真1）電子機械出身の私は当然船を間近で見る機会は少なく、ましてや建造施設に収まっている船を見るのは初めてのことだったのでとても心が躍りました。



写真1 進水式を控えた新・大島丸

検査立合では外の塗装、内装の状態を確認して回りました。（写真2～3）



写真2 船橋の状況



写真3 船内の状況

船内では作業が行われており、たくさんの作業員の方が暗い船内を出入りしそれぞれの作業を行っていました。

船底の塗装も見て回りました。普段海面下にある部分なので、形状や設備など見られない部分を見られたのは大変勉強になりました。（写真4）



写真4 船底の検査

翌日の進水式では、撮影補助スタッフとして参加させていただきました。

進水式用に装飾が施された新・大島丸は、海に出るのを今か今かと待ちわびているような印象を受けました。（写真5）



写真5 装飾が施された新・大島丸



写真6 「大島丸」命名式



写真7 装飾が施された新・大島丸

私は進水式というものを、動画サイトの映像やテレビぐらいでしか見たことがなかったので、断片的にしか知りませんでした。

画像や動画からでは伝わってこない、感じ取れないその場の雰囲気を感じられ、とても高揚しました。

今回一通り進水式を見ることができたので、今後は人に話して聞かせたいくなるような貴重な体験でした。

最後に、今後のこの「大島丸」の安全な航海と、この船で行われる研究の発展を祈ります。



写真9 10/12の見学後、造船所の正門前にて
(左:吉村学生、右:三浦学生)



写真8 進水後の新・大島丸

第4代「大島丸」の命名・進水式

新・大島丸 命名・進水式報告（2022年10月13日）

大島商船高等専門学校専攻科 海洋交通システム学専攻1年 佐藤次郎

皆様初めまして。高専51期生の佐藤次郎です。9月に大島商船の本科生を修了し、10月から専攻科生となりました。このたび、新・大島丸の進水式が10月13日に行われ私も参加させていただきました。

新・大島丸の設計図は見たことがありましたが、当日まで建造中の新・大島丸を見ることはありませんでした。そのため実際に拝見することが楽しみでした。

当日は天候にも恵まれ新・大島丸の晴れ姿を見ることができました。三菱造船所に向かうと新大島丸は、2隻の大型の建造及び艀装中の船に挟まれていました。これらは、大島丸よりも大きな船でしたが私の目にはそれにも負けないぐらい、大島丸は大きく美しく見えました。その姿はまさに美しい白鳥のようでした。

式が始まり、1号鐘、2号鐘と着々と進水への作業が進み、支鋼切断とともに進水をはじめたときはとても迫力がありました。

新大島丸は全長56.3m、総トン数370トンと、前・大島丸よりも大きさが約1.3倍になっています。しかし、実物はそれ以上に大きいのではないかと思うほどでした。また、アンカーもJIS型から近年使われているAC14型に変わっていることに気づきました。これから内装の方が作られていくと聞いて完成後の船内を見るのが楽しみです。

今回進水式という貴重な式典に参加でき、とても有意義な経験となりました。

新・大島丸は2023年3月から実際に運航を始めます。これからは、この新「大島丸」

で実習を行えることがとても嬉しく楽しみでもあります。これから、専攻科の在学中に、しっかりと知識や技術を身につけ立派な船員になるよう精進します。



大島丸の進水式の状況

(白制服で参列しているのは商船学科5年生)

参議院議員(比例代表 全国区)

赤池まさあき

～国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強！
結果に責任！

大島商船高専 新練習船「大島丸」進水式に出席



商船高専の練習船での実習は船員教育の要！

「国づくり、地域づくりは、人づくりから」を信条に、そして「日々勉強！結果に責任！」をモットーとして、活動を展開している参議院議員(比例代表全国区)赤池まさあきです。

十月十二日、山口県周防大島町にある大島商船高等専門学校(古荘雅生校長先生)を視察させていただきました。

翌十月十三日には、山口県下関市にある三菱重工業株式会社下関造船所において、大島商船高専の新練習船「大島丸」の命名・進水式が行われ、私も出席させていただきました。

商船高専は、現在、全国に五校ありますが、各校の練習船はどれも二十年以上使用され、老朽化が進んでおり、その更新が課題となっていました。練習船での実習は、船員教育の要であり、最新の機関や設備を用いた教育の重要性や、女子学生の増加に伴う船内の環境整備、そして、昨今の災害が頻発化する状況と踏まえ、地域の防災拠点としての新たな必要性も要望として出されています。

そのような中、三年前の令和元年十一月、自民党本部において、商船五校、地元首長、海産業関係の皆様にお集まりいただき、関係国会議員とともに「商船高専五校の練習船更新と教育の充実」に向けての集会を開催し、決議をいたしました。集会后は、財務省と文部科学省への練習船更新の要望活動も行われました。

その結果、関係各位の長年のご尽力により、商船高専五校の練習船の船齢順に計画的な更新が決まりました。まずは、①大島商船高専の「大島丸」、次に②弓削商船高専の「弓削丸」、そして③鳥羽商船高専の「鳥羽丸」、④富山高専の「若潮丸」、⑤広島商船高専の「広島丸」が順次更新されていきます。

その練習船更新の第一弾が大島商船高専の「大島丸」であり、今回、快晴の中、進水式を迎えることになったのです。今後は、艦装が行われ、来年三月には大島商船高専に引き渡され、いよいよ来年度から使われることとなります。

船室は色使いや照明にも配慮され、大変素晴らしい練習船になるとのことです。ぜひ実習で、海洋国家の担い手となるべく、様々なことを多くの若者に学んでほしいと思います。

今後、海洋国家である我が国にとって欠かせない海洋人材の教育の充実を目指し、計画的な練習船の更新等、より一層の力を尽くしてまいります。変わらぬご指導を賜りますようお願い申し上げます。

(赤池まさあき)

その結果、関係各位の長年のご尽力により、商船高専五校の練習船の船齢順に計画的な更新が決まりました。

その結果、関係各位の長年のご尽力により、商船高専五校の練習船の船齢順に計画的な更新が決まりました。

【国会事務所】
〒100-8962
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館524号
TEL: 03-6550-0524
FAX: 03-6551-0524
HP: <https://www.akaike.com>

【自由民主党 党員募集】
自民党では党員を募集しています。詳細は事務所まで！

赤池誠章(あかいかげまさあき)
昭和三十六年山梨県生まれ。明治大学卒。松下政経塾出身。自動車整備士養成専門学校長を経て、衆議院議員に初当選。清和政策研究会に所属。平成二十五年の参院選比例代表(全国区)で国政復帰。国土交通委員会理事、文部科学大臣政務官、文部科学委員長、自民党文部科学部会長(三期)、内閣府副大臣を務め、現在、党政務調査会副会長、海振興連盟常任幹事、海洋教育推進PT座長、参議院議員二期目。



赤池まさあき

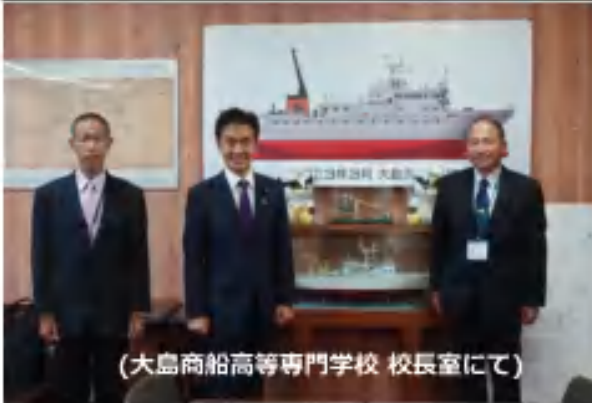
国政ニュース

～ 国づくり、地域づくりは、人づくりから～



日々勉強!
結果に責任!

大島商船高等専門学校 視察



(大島商船高等専門学校 校長室にて)

十月十二日、山口県周防大島町(藤本浄孝町長)にある国立の大島商船高等専門学校(古荘雅生校長先生)を視察させていただきました。同校は、山口県の東南部瀬戸内海にあり、柳井市、岩国市と隣接しています。今年度は、高専制度自体も六十周年の節目となりますが、大島商船高専も創設百二十五周年を迎えられます。海洋国家である我が国にとって、その担い手育成のための海洋人材教育は必須です。私は平成二十八年から、産官連携の海洋教育推進プロジェクトを立ち上げ、今日まで座長として取り組んでまいりました。

大島商船高専は、一番西の地域にある商船高専であり、伝統の商船学科とともに、ものづくりの電子機械工学科、コンピュータ活用の情報工学科があり、三学科の構成となっています。校長室で全体概要を聞き、その後、商船学の情報の授業や大型水槽の実習実験装置、操船シミュレーター、電子機械工学科の練習船を活用した防災時の安否確認システム等の開発、情報工学

海事産業の担い手になるには、高校卒業後に東京海洋大学や神戸大学、海技大学校・短大等への進学のみならず、中学校卒業後に商船高専や海技学校へ進むという道もあります。商船高専は、現在、全国に五校あり、各校四十名で計二百名の担い手育成が毎年夏に実施されています。



(周防大島町役場前)



(学生自ら研究開発に挑戦!!)

来校記念の缶バッジを頂きました



(赤池まさあき)

科の地元のキノコ類の自動収穫装置開発について等、先生や学生の皆様から大変興味深い話を聞きました。周防大島という大変素晴らしい環境の下、中卒五年制の地域に根ざした教育が行われていました。商船高専で多くの学生達が学び、そして、海洋国家の担い手となってほしいと、心から期待しています。引き続き、より一層の支援をしていきたいと思えます。



(風洞水槽実験装置の説明を受ける)



(操船シミュレータの説明を受ける)



B号航海記（第6回）

内海水先区水先人会水先人 会員 栗 阪 肇

前回まで：鉄鉱石を満載して、Tubarao（ブラジル）を出帆した。

会社から次の内地で下船し、陸上勤務を再開すると業務命令を受信した。

4-43) 北斗七星

5月9日、船内時間1900時（日本時間2300時）の本船の位置は南緯19度50分、東経82度10分。夕方の当直中、日没後ふと本船の左前の水平線のすぐ上を眺めると、懐かしい星座が浮かんでいました。

北斗七星の一部でした。ひしゃくの先端から α 星ゾーベ、 β 星メラク・・・最後7番目の η 星ベネトナッシュでした。

日本で見られるのと違い、南半球からは1日の内ほんの数時間だけひしゃくを下にして、柄の部分が東側に延びる形です。この形は、前船A号でブラジルRio de Janeiro沖を航行していた時にしばしば目にしていた形と同じです。

次の目的地大分までまだまだ距離がありますが、日本が少しずつ近づいていることを実感しました。北斗七星のひしゃくの部分をたどって行くと雲の間から本船の針路上に牛飼座アルクツルスが赤く瞬き、そのままひしゃくが伸びている方向に延長線を伸ばしていると、おとめ座スピカを発見しました。本船の走ってきた航跡、後ろ方向には間もなく水平線へと沈もうとしているオリオン座、右後方には南十字星とその直ぐ近くにいるケンタウルス座が雲に隠れたり現れたりして、かくれんぼしていました。一緒に船橋で当直をしている相棒のセーラーと美しい夜空に酔いしれていると、右45度方向からさ

そり座の頭部分が輝き始めました。

バスコ=ダ=ガマは、南インド洋で初めて北斗七星を見たとき、どんな思いだったのでしょうか？ 目的地インドに向けて船が北上していること。と同時に、日出と日没時間を船内時計（※註釈）で計測しながら船が東へ向かっていることを確認したと思います。最新鋭の航海機器を装備して、時々刻々と現在位置と目的地までの距離と時間が分かる現代の商船とは違い、いつも甲板上で大自然と向き合いながら船を推し進めて行かなければならないガマは、いつも危険と隣りあわせで、忙し過ぎてあれこれと悩んでいる時間はなかったのかもしれない。

それに比べ、航海技術など全てにおいて進歩した現代に生きる著者は「なんと中途半端な（船乗り）人生を今まで送ってきたのだろう」と最近になって気付き始めました。今までは、嵐の中で沈みそうになったり、不審船に追いかけられたり、落雷の直撃を受けたり何度も危険な目に遭いながらも、一生懸命に自分の夢（40才までに船長になる）に向かって進んでいるつもりでした。

ところが、本船を含めて一度決めた自分の進路についてあれこれ悩んだり迷ったり考える時間があつたということは、船を動かす技術を「人生という長い航海」に全く応用することができていなかった証拠です。本船を下船後の進路について、まだ悩んでいます。

※ 船内時計：ここでは14世紀初めに存在していた機械時計を指す。その後、クロノメーターの出現により天文航法の技術が躍進した。クロノメーターは経線儀（時辰儀）とも呼ばれ、

名前はギリシャ神話の時の神クロノスにちなんでいる。

4-44) Cocos 島

南アフリカの南端からインドネシア領スマトラ島とジャワ島の間にあるスンダ海峡へ最短コースを進むと、その進路の南方に Cocos 諸島が待っています。Cocos 島は別名 Keeling 島ともいいます。Cocos 諸島はジャワ島から西、ミャンマーから南に位置する南インド洋上にあります。

本船は、5月13日0700時(日本時間0900時)に北Cocos島の北方26海里沖を通過しました。ちょうど著者の朝の当直中でしたが、遠過ぎて肉眼で見えることはできませんでしたが、レーダーで確認することができました。

「ADMIRALTY SAILING DIRECTIONS MALACCA STRAIT AND WEST COAST OF SUMATERA PILOT NP44 Ninth Edition 2008」THE UNITED KINGDOM HYDROGRAPHIC OFFICE で調べてみると残念ながら島の写真はなく文章のみの説明でした。

1609年、東インド会社の William Keeling 船長が発見したそうです。もともとは無人島でしたが、現在はオーストラリアに属し、人口は596人(2008年)。南Cocos諸島に空港があり西豪州 Perth、ジャワ島の南東にある Christmas 島と空路で結ばれています。

4-45) 宮崎県都井岬

本船の今までの航海の事例だと、大分到着の前は必ずこの都井岬沖で順番待ちのため時間調整(Drift)を行っていました。しかし、珍しく今回に限りそれはありませんでした。阪神淡路大震災(商船学校時代)で被災した直後、大学で土木建築を学んでいる高校時代の同級生に教えてもらいました。飛行機、車、船と様々な乗り物がありますが、土木建築分

野では建物と同じように考えるそうです。

「飛行機は、空という大地の上に。自動車は道路。船は海という大地の上に建った建築物だ。」

一方、著者が商船学校時代に習った流体力学の分野では、別の見方をします。「飛行機は空気という流体の中を。自動車は道路上を走りますが基本は空気の中を。しかし、船の場合は水と空気の両方の空間を移動する。」同じ船ですが、色々な考え方があると勉強になりました。

話を戻して、海の上でプカプカとエンジンを停止して浮かんで(Drift)いると海には海流という複雑な川の流れのようなものがあり、空気という空間には風という複雑な流れがあります。絶えず予想しない方向に移動します。車のようにちょっと路上駐車をする訳にはいかないのです。プカプカしている間も、我々航海士は気をつかいます。危険が迫りエンジンを始動しようとしても、本船では最低30分はかかるので30分以内の距離には島、他船、魚網など入れないように注意しています。



大分港で揚荷中のB号

4-46) 大分

本船に乗船してから初めて訪れた大分港。大分港のある大分とは、大分県中東部の地名。県庁所在地。古くは豊国(とよくに)の国府

所在地。大友氏以来の旧城下町。JR 日豊本線と豊肥・久大両本線の分岐する交通の要地です。



大分港の記念碑

鉄道の分岐点、道路の交差点、進学や就職など人生の選択。我々の身近なところには様々な分岐点があります。しかし、それは目に見える大きな分岐点の1つであって、実は毎日の同じように見える生活の中にも隠れた分岐点があり、それも目に見えないけれども重要なものが沢山隠れているのではないのでしょうか？ 例えば、仕事やプライベートの1本の電話、E-mail、会見。或いは、1冊の本との出会い。

著者の幼い頃は、将来の夢(なりたい職業)が沢山ありました。学校の先生、電車の運転手、飛行機のパイロット、科学者、医師。その中で、ご縁があったのは「外航船員」でした。大分とも深い縁ができました。水先修業生となって以降、頻りに大分を訪れることとなるのですが、それは今から4年後。

海技大学校 水先教育センターの講師となり、夢の一つがかなったと大喜びするのは、10年後の話です。

4-47) 周防灘

5月31日0345時(日本時間)、本船は次港戸畑の順番待ちのため山口県宇部空港から南へ5海里の周防灘に錨泊しました。今回

は、前回(今年1月)に錨泊した場所よりさらに南方へ約2海里の海域となりました。本船の周りには、関門海峡の通峡待ちのための大型船、宇部港の入港待ちの大型船がすでに錨泊していました。今年1月と違うことは、次の3点です。①季節の推移により、日中はシャツ1枚でも過ごすことができる。②黄砂現象により晴れていても視界が悪く、約7海里北に広がる宇部港を日中に視認することができない。③次港の戸畑において、著者の下船することが決まっている。

黄砂とは、西日本で見られる現象です。中国の北部、モンゴルなどで、黄色の細かい砂が風で吹き上げられ、黄色または赤褐色に空を覆う現象です。3月から5月にかけて、微細な砂塵が偏西風に乗って日本にも飛来します。

本船の周りには、関門海峡へ向かう国内航路の小型貨物船。関門海峡を抜けて、韓国、中国へ向かう大型貨物船。小倉港、新門司港へ、荇田港へ向かう大型カーフェリーやRORO船が次から次へと往来しています。

目を上空に移すと、本船の北に位置する宇部空港。西に位置する北九州空港を離発着する旅客機の便を眺めることができます。

船橋にある2台のVHFからは、本船の近くを航行する船舶間通信、船と海岸局との通信が、日本語、英語、中国語、韓国語、タガログ語で混信しながら流れてきます。時折、遠く離れた韓国釜山港の海岸局の通信も傍受できるので驚きです。

現代では、航空機や鉄道、トラックの輸送手段が飛躍的に発展したので物流とは海ではなく空と陸の割合がほとんど占めていると日本人には理解されているようです。しかし、国内輸送を例にとっても実は、物流のトン・キロを単位とすると全輸送量の40%を運んでいます。特に、石油製品や石灰石、鉄鋼、セメントなどの産業基礎物資について見

ると、その 80%以上を運んでいます。

4-48) アルバム おもいで

仮泊最後の日となった 6 月 4 日はバタバタしていました。実は、その日の朝に山口県宇部空港沖から北九州戸畑に移動する予定でした。しかし、著者の当直中の朝 5 時、北九州ポートラジオから突然 VHF で呼び出しがあり「本船の入港が本日（4 日）の夕方以降に変更になった」旨の連絡がありました。すぐに戸畑の代理店に電話連絡すると本船の前船出帆が遅れたのが原因でした。これ以外にも、本船に乗船している時しばしば予定が変更（急に遅れたり、早まったり）になりました。気を取り直して、次の守錨当直である三等航海士に引き継ぐべく 8 時まで船橋で入直していました。

すると、懐かしい船が関門海峡方面から本船に近づいていることが VHF を傍受していて判明しました。彼女の名前は海王丸。そう！著者が商船学校 5 年生の時、最後の乗船実習でお世話になった練習船です。同型姉妹船日本丸とともに別名を「太平洋の白鳥」または、「海の貴婦人」とも言います。97 年 4 月に東京で乗船し、鹿児島、大阪、油津、大阪、釜石、東京、Vancouver、Honolulu と訪れ、97 年 9 月東京で下船と記憶しております。鹿児島から大阪までは、途中からでしたが国際帆船レース Sail Osaka 97 に姉妹船日本丸とともに参加しました。

本船に乗船する前の休暇中、神戸ポートタワーの直ぐ近くにあるビジネスホテルで一泊していました。朝 5 時頃だったと記憶しています。ふと部屋のカーテンをあけると、そこに海王丸が停泊していたのです。「おはよう！久しぶりだね。」と著者に話かけているかのような様子でした。ホテルで朝食を済ませ、チェックアウトの後、すぐに彼女（海王丸）のいる公共埠頭（新港第 1 突堤）へ自然と向け



周防灘を東航する帆船海王丸

ていました。残念ながら朝早かったので埠頭の入口はしまっていました。携帯電話で写真を撮って帰りました。

その前彼女に会ったのは、東京で会社員（最初の陸上勤務）をしていた 2004 年 1 月。家族で横浜港での出航式の見送りに行きました。子供達に父（著者）が乗っていた練習船を見せたかったからです。出航式で来賓の挨拶があったのですが、当時の N 横浜市長のお父様が富山商船高専の卒業生であることが披露されました。実習生である商船高専の学生さんには、嬉しいはなむけの言葉だったに違いありません。

著者の人生の節目、節目には、海王丸を含む練習船がたびたび登場します。そもそも著者が船乗りになったのは、保育園に通っていた時代にさかのぼります。岡山県宇野港に帆船が寄港したので、父に連れられて生家から 1 時間以上もかけて車で帆船を見に出かけたのです。その時の帆船は、日本丸 1 世または海王丸 1 世のどちらかでした。現在動いている、著者がお世話になったのは 2 世たちです。日本丸 1 世は横浜港日本丸メモリアルパークに、海王丸 1 世は富山県富山新湊港にそれぞれ永久保蔵されています。

宇野港で始めて帆船を見たときのことを、約 30 年以上たった今でも鮮明に覚えています。記憶がはっきりしているのは、強く感激

したからです。帆船の舷梯から降りてきたのは、カッコイイ真っ白の夏制服をまとった実習生もしくは、練習船士官でした。それから、「船」に興味を持ったのだと思います。保育園の卒園制作が、アルバムの表紙でした。

表紙には油槽船が描かれているのですが、著者の社会人としての第1船はVLCCでした。つまり、アルバムは著者の将来を予言していたのです！ アルバムはぼろぼろになっていますが、今でも、そして、これからも著者の一番の宝物です。

4-49) 下船

6月5日、山口県宇部空港沖の周防灘を後にしたのが0220時でした。関門海峡を通峡して北九州戸畑に到着したのが0730時。

ブラジルで積んだ鉄鉱石20万トンのうち大分で9万トン揚げたので、残り11万トンの揚荷を開始したのが0835時。著者の後任一等航海士がフィリピンから到着したのが昼過ぎでした。

6月7日11時、7ヶ月近く乗船していた本船を下船しました。タクシーで本船から税関へ立ち寄り、JR戸畑駅からJR小倉駅、そこで新幹線に乗り換えて岡山駅まで。家族の

待つ愛媛県四国中央市に帰る前に、途中の岡山県倉敷市の生家に立ち寄りました。

ところで、商船学校の同期の中には、ここ1、2年前から船長・機関長として活躍している者もいます。一方の著者は、まだ一等航海士。それも一等航海士として9隻目。社会人となって合計16隻目ですよ！ 長いなあ～

人生は、他人との比較ではありませんが、正直1日でも早く船長・機関長になった同期は羨ましいです。永年の夢「船長」になるために著者の努力が必要なもの、今足りないものは何かと絶えずと考えながら、本船でも勤務していました。その答えが、下船する瞬間になって本船が最後に教えてくれました。

本船の船名、『COURAGE』つまり、勇気。従来の古い慣習や、世間で言われるところの常識などにとらわれず、『勇気を持って、どんどん新しいことに挑戦しなさい。』そうすれば『SPRING』春。転じて（人が）急に成長する。芽を出す。ことができるよ」と。永年の夢を実現するのに、今一番 著者に必要なのは「勇気」を持って一歩前へ進む（決断する）ことだったので。

(C号航海記へと続く)



卒園制作 おもいで

咸臨丸調査の想いで

LNG マリンコンサルタントオフィス 代表 藤原 隆 征

そろそろ終活の準備を始めようかと、古い資料を取り出していたところオランダ駐在時の咸臨丸調査に関係した資料が出てきた。

私は S 汽船会社が設立した現地法人のロッテルダム支店駐在員として約 6 年間 (1973~1979) オランダに滞在した。

この間にロッテルダム市内の造船所ファン・デル・ギーセン・ド・ノールド (van der Giessenn -Noord N.V) で MR 型のプロダクトタンカー M.T 号の建造に現地責任者として関わった。

本船の完成記念パーティが市内のレストランで行われた席で造船所代表のファン ヒール氏 (Mr. Van Heel) と隣席する機会を得て、ロッテルダムのホップ・スミット (FOP Smit) 造船所で建造されたヤーパン号について、のちに咸臨丸と改名され幕末動乱期に活躍したことなどを話題にした。

そこで残念だが咸臨丸の資料が日本国内に残っていない旨の話をしたところ、建造ヤードのスミット社は既に造船事業は閉鎖しているが我が社が同社の建造船資料は全て保管しているとのこと、調査への協力を快諾していただいた。

その後、ヒール氏より添付のレターが届いた。内容は、咸臨丸の図面は紛失している、ロッテルダム博物館に収められている船体模型の写真と 3 通のレターの写しを同封する、というものであった。



M.T 号の船橋での引き渡し式(左端がヒール氏)
背景はライン川とロッテルダム市



ヒール氏からのレター

ヒール氏からのレター3 通はおおむね以下の通りである。

1. 練習船「海王丸」の佐野船長(K. Sano)から Mr.E.W.Argyle 宛のレター

英国の月刊誌シーブリーズ(Sea Breezes)の1960年12月号に咸臨丸のスタンプが掲載され、これを見た佐野船長が以下の内容の調査を出版社に依頼したもの。

・日本国内では咸臨丸の長さ、幅、深さすら分からず、トン数に関しては400トンとか800トンとか言われている。これらの正確な数値と出来れば基本寸法を示す図面を入手できないでしょうか。

・建造したスミット造船所(L. Sumit)は現在稼働しているのでしょうか。もしそうでなければ、咸臨丸の資料を保管している英国、オランダの図書館又は博物館など、あればお知らせ下さい。

・咸臨丸は日本の海事史に残すべき重要な船舶です。是非協力されたい。1960年発行、日米修好通商百周年記念切手のうち、咸臨丸を描く切手のコピーを同封します。

2. Mr. E.W.Argyle からスミット造船所宛、1961年2月21日付のレター (添付)

私は雑誌シーブリーズの発行元の編集者です。御社のキンデルダイク工場で1857年に建造された咸臨丸に関して、日本の練習船船長佐野氏のレターを同封いたします。是非彼の要望に沿ってご解答していただければありがたい。

佐野船長によると、咸臨丸は1860年日米修好通商条約批准のため政府代表団を乗せ、日本人乗組員による太平洋横断航海を初めて成功させるなど、多くの近代日本発展に貢献したとのこと。添付のスタンプは日本人作の咸臨丸木版画のコピーです。



出版社 Argyle 氏からスミット造船所宛のレター

3. スミット造船所から Mr. Argyle 宛のレター (添付)

貴レターと添付された佐野船長レターの一部コピーを受け取った。残念ですが、我々は咸臨丸に関する資料は何も保存していない。

ただ、外部の資料提供者より得た情報によると以下の通りである。

建造年月日 1856年

長崎港到着 1857年8月4日

乗組員 33人、副艦長としてオランダ人一等航海士2名

長さ×幅 163ft x 24ft

出力 100馬力

排水量 300トン(600トン?)

Mr E W Argyle
 20 Wentworth Avenue
 Wallasey,
 Cheshire
 England
 Dear Sir,
 We duly received your letter of
 21-2-1961 with part of letter from
 the Captain Seno, concerning
 steam schooner 'Kaurin Maru'.
 Unfortunately we have no own
 records of this ship, other than
 the fact that we built her for
 the Japan Imperial Navy in
 1857.

5-5-1961
 'Kaurin Maru' Rotterdam 41 tons
 built in Holland in 1856
 completed in Nagasaki 4-8-1857
 33 men, 2 lieutenants
 Boyesen and Hardes
 3-mast wooden built ship
 single propeller
 steam schooner 'Colbert' type
 length 163 ft
 breadth 24 ft
 47
 displacement 300 tons
 we built under Otsuro Shimose
 1857
 22/22-12-19

スミット造船所が外部関係者から得た データ

However, we have found from other
 sources, that the ship arrived
 in Nagasaki 4-8-1857,
 manned by a crew of 33, with
 the ^{lieutenants} Boyesen and Hardes
 as chief officers.
 The ship was a ^{wooden 3-mast} steam schooner
 of 'Colbert' type, single propeller,
 length 163 ft, breadth 24 ft
 displacement 300 tons, engine 100hp

スミット造船所から Argyle 氏宛のレター

その後、1989年に同型艦「バリ号」の設計図がロッテルダム海事博物館で発見され、2005年に詳細が公開された。トン数は620トンであった。佐野船長はこのトン数をいずこかでお聞きになっただろうかと、ふと思った。余談 佐野船長が咸臨丸の資料調査をされていた1960年、その一年前に私は日本丸で6ヶ月間の遠洋航海実習を受けた。当時、日本丸千葉船長、海王丸佐野船長の両者が最も有名な伝説の船長であった。乗船して最初の訓示で千葉船長が話された「100里を行くものは99里をもって半ばとすべし」が心に響いた。それ以来、私の座右の銘にしている。更に、この度佐野船長の長文の英文レターに接し改めて両先輩の偉大な行動に尊崇の念を新たにしている。なお、遠洋航海実習を受けた日本丸の演習航路も往路ロサンゼルス（咸臨丸はサンフランシスコ）、復路ハワイ、ヒロ港経由であり、咸臨丸と同じ航海であった。



富山高等専門学校

○「洋上救命講習」を実施

7月12日(火)「洋上救命講習」を実施しました。本講習は洋上での救命技術を体得することを目的に行っており、商船学科4年生43名は5班に分かれ、着衣のまま救命胴衣を装着して練習船「若潮丸」のデッキから一人ずつ飛び込みました。学生たちは救命筏を目指して泳ぎ、一旦筏に乗り込んだ後に再び若潮丸に泳いで戻り、船尾側に設置されたライフネットや縄梯子を登りました。

また、午後からは各種遭難信号の打ち上げ実習を行いました。



洋上救命講習の様子



洋上救命講習の様子

○ 夏季オープンキャンパス

8月4日(木)～6日(土)の3日間、オープンキャンパスを実施しました。

商船学科では、8月4日(木)に「電池推進船らいちょうと練習船若潮丸を見てみよう」と題して、電池推進船の仕組みや船の構造を学びました。

また5日(金)・6日(土)は「若潮丸に乗って船、海、港を見てみよう」と題して、本校練習船に乗船し、出入港時および航海中の海や港を見学する体験航海を実施しました。

参加者は船の運航の様子や機器を実際に見学し、乗組員、商船学科教員、補助学生と触れ合いながら、船員の業務、船員として働くことの魅力について、理解を深めました。



夏季オープンキャンパスの様子



夏季オープンキャンパスの様子

○ 商船学科 4 年生の乗船実習と後学期授業開始

商船学科 4 年生は、予定通り 10 月 1 日（土）に日本丸と銀河丸に分かれて乗船しました。昨年度、3 年次に乗船してから約 1 年ぶりの練習船乗船となります。昨年度の乗船時には良い経験をたくさん積むことができた喜んで報告してくれた学生もあり、引き続き今年度も得難い経験を積んでいくものと期待しております。

また本校においても 10 月 3 日（月）から、後学期の授業が始まりました。低学年の学生はこれからの将来に向けた勉強と資格取得等に励んでもらいたいと思います。5 年生は残り半年の席上過程にて授業と卒業研究の両方に取り組んでいくことになります。専攻科海事システム工学専攻入学式も、同日 10 月 3 日（月）に開催されました。これから 2 年間、講義・演習・実習・特別研究に取り組んでいきます。

○本校教育プログラムが、数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定教育プログラム(リテラシーレベル)プラスとして選定、および、同認定制度(応用基礎レベル)として認定されました

内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携して推進しているAI戦略の一環である「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」において、令和3年6月30日付で本校教育プログラムがリテラシーレベルの認定を受けておりました。さらに令和4年8月24日付で「認定教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」として選定されました。また、令和2年度から電気制御システム工学科および電子情報工学科で実施している教育プログラムが、リテラシーレベルよりも上位の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」として認定されました。

富山高専にて、商船学科を含む全学科の学生たちに対して、数理・データサイエンス・AIに関する教育が認められた取り組みとなります。

(教務主事補 商船学科 経田僚昭)

○ 商船学科卒業証書授与式

9月27日(火)、射水キャンパス第2体育館において、令和4年度商船学科卒業証書授与式を挙行了しました。

航海実習用の白い制服に身を包んだ商船学科卒業生39名へ卒業証書が手渡され、國枝校長から「予測不能で困難な世界においても、己を信じ、本校で学んだ能力を発揮して明るい未来を切り拓いていって下さい。」と告辞がありました。

続いて、在校生代表の商船学科4年 天明 昂さんからの送辞を受け、卒業生を代表して中野慎二さんが「コロナの影響で一時下船を強いられるなどの困難な状況でも、身に着けた忍耐力とこれまで築いてきた友人関係があったからこそ、無事乗り越えることができました。本校や大型練習船で習得した知識・技術そして経験を、そ

れぞれが進む道で活かし、社会に貢献できる人材に成長する事を誓います。」と答辞を述べました。

最後に卒業生たちは、帆船の出航時に行われる「登檣礼(とうしょうれい)」の儀式にならって「ごきげんよう」を三唱した後、制帽を高らかに投げ、新たな人生への船出を祝う大きな拍手に包まれながら、輝く未来へと旅立ちました。



答辞(中野慎司さん)



登檣礼(とうしょうれい)

○ 海事システム工学専攻入学式

10月3日(月)、射水キャンパスにおいて、令和4年度専攻科海事システム工学専攻入学式を挙行了しました。

國枝校長から、入学許可が宣言されたのち、「専攻科における主体的な学びと果敢な挑戦的研究の遂行により、皆さんご自身のより大きな成長を、私ども教職員一同、心から期待しています。」と式辞が述べられました。続いて、新入生5名を代表して永田 安生乃さんから、「社会から期待される使命は、将来海事システムの分野

で新たなシステムの創造を担う人材になることであると自覚し、この2年間、日々精進を続けていくことを誓います。」と挨拶がありました。新入生は、これから、グローバルな視点からシステム創生を担える海事技術者を目指して、勉学に励みます。

<学生会活動>

○ 球技大会

10月14日(金)、爽やかな秋晴れの空の下で合同球技大会が開催されました。今年度は各キャンパス単独での開催方式となり、体育委員会が中心となって開催されました。競技内容や競技ルールは感染症対策に十分配慮し、射水キャンパスではサッカー、キックベースボール、バスケットボールおよびアルティメットの4競技を実施しました。



球技大会



○ 海浜清掃

11月9日(水)、射水キャンパスの電子情報工学科、国際ビジネス学科、商船学科の各学科2

年生による海浜清掃を行いました。各クラス、ゴミ袋がいっぱいになるまでゴミを拾い、日頃お世話になっている学校周辺をきれいにする事ができました。収集したゴミは、最後に学生会が分別を確認して処分しました。

<課外活動>

○ 令和4年度 高等学校総合体育大会

7月23日(土)から8月23日(火)の期間に開催された全国高等学校総合体育大会に、射水キャンパスからは3名の学生が出場しました。全国の高校生が集う最高峰の舞台で、各選手は存分に練習の成果を発揮しました。出場競技は以下の通りです。

- ・ヨット競技(男子レーザーラジアル級)
- ・空手競技(女子個人組手)



高校総体(ヨット競技)

○ 第57回北陸地区高等専門学校体育大会

6月25日(土)、7月2日(土)、7月3日(日)の日程で、第57回北陸地区高等専門学校体育大会が開催されました。

今回は石川工業高専が主管校で、多くの競技は石川県内の会場で実施されました。

バレーボールとサッカーは本校が主管で、サッカーは今年5月にオープンしたばかりのオリバースポーツフィールド射水で実施されました。日頃の練習の成果を発揮し、多くの学生が全国高等専門学校体育大会への出場を決めました。



北陸地区高専大会

○ 第 57 回全国高等専門学校体育大会

令和 4 年 8 月 20 日～9 月 4 日の日程で、第 57 回全国高専体育大会が四国地区で開催されました。多くの学生が日頃の練習成果を発揮し、好成績を収めました。その一部を紹介します。(射水キャンパス、1 位から 3 位のみを掲載)

テニス

男子ダブルス	2 位
男子シングルス	3 位
男子団体戦	3 位

バスケットボール

女子	2 位
----	-----

水泳

女子 4×50m フリーリレー	3 位
-----------------	-----

卓球

女子シングルス	3 位
---------	-----

陸上

女子 100mH	1 位・3 位
女子 4×100m リレー	1 位
女子円盤投	3 位

陸上女子 100mH では電子情報工学科 5 年生の直井保乃花さんが通算 3 大会 (第 53・54・57 回大会) での優勝を果たし、特別表彰が授与されました。

○ 国民体育大会

10 月 1 日 (土) ～10 月 11 日 (火), 第 77 回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」が開催され、本校からはセーリング (ヨット) に 2 名, 空手に 1 名, 馬術に 1 名の学生が出場しました。各選手は富山県の代表選手として、他の都道府県代表を相手に恥じない戦いを繰り広げました。

○ 第 33 回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

10 月 15 日 (土) ～16 日 (日), G メッセ群馬にて第 33 回全国高等専門学校プログラミングコンテストが開催されました。

今回のテーマは「ここだんべ! 日本一熱き IT の戦場!」です。本校からは、競技部門「力合わせる六万人」に、本郷キャンパスチーム「チームサトウ」、射水キャンパスチーム「でじけんっ!」が本戦に出場しました。

○ 全国高等専門学校ロボットコンテスト 東海北陸地区大会

10 月 23 日 (日), AGF 鈴鹿体育館にて全国高等専門学校ロボットコンテスト東海北陸地区大会が開催されました。3 年振りの現地開催となった今回のテーマは「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ!～」です。本校からは、本郷キャンパスから 2 チーム、射水キャンパスから 2 チームの計 4 チームが出場しました。大会当日は応援団も駆けつけ、観客席から選手らに熱い声援を贈りました。各チームの白熱した飛ばし合いの結果、本郷 A チームはアイデア賞、本郷 B チームは特別賞 (マブチモーター株式会社) を受賞しました。また、本郷 A チームは全国大会出場推薦チームに選ばれました。

大会の様子は公式YouTubeチャンネルでもご覧になることができます。

【高専ロボコン 2022】10/23(日)12 時配信開始
東海北陸地区大会

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=WxHT983mPVg>

選手宣誓 (I3 益子学生) …0:42:16 頃～

射水 B 「一擲千機」 …0:56:03 頃～, 2:13:28 頃～

本郷 A 「SKY×FAMILY」 …1:10:17 頃～, 3:22:57 頃～

射水 A 「田圃補完計画」 …1:41:06 頃～, 2:25:55 頃～

本郷 B 「回る本郷寿司」 …1:56:54 頃～, 2:45:15 頃～

準々決勝 (本郷 A) …4:06:52 頃～

準決勝 (本郷 A, 応援合戦) …4:24:46 頃～

表彰式 5:39:54 頃～



高専ロボコン 2022 地区大会 射水A



高専ロボコン 2022 地区大会 射水 B

北斗会 便り

劔岳の山頂が白くなり始めた立山連峰が見える富山の晩秋風景。

時は確実に変化しつつも、3年目になったコロナ感染症騒動は一向に収まる気配がなく、第8波の予兆さえ伺えるこの頃、母校でも例外なくクラスターが発生している状況に虚しささえ覚えるこの頃です。

昨年6月に玉川新会長を迎えた北斗会は、本部と全国各支部との連絡を強固なものにするためリモート会議を頻繁に開催しています。

また、本部事務局にあっては、これまで本部の各種事務作業をこなしている校内理事(母校に勤務する同窓生)の負担を軽減することと、間もなくスタートする新同窓会体制の運営業務準備のために専属事務局員1名を有償で配置することになりました。

1か月ほど前に同窓生のご子息から荷物が北斗会事務局宛に届きました。荷物の中にはクリーニングされた旧学生服(紺色と白色)、制帽に実習服が収められていました。付属の手紙には「同窓生である父親が先日亡くなり、遺品を整理していたら、きれいに管理されている前述の品々が収められている箱が出てきた。本人にとっては大切な思い出の品々であったらと思うと処分するに忍びなく、父の思い出の地、富山に返してやりたいと思い送りました」とありました。頂いた北斗会としては校内資料室に展示させていただく予定で準備を進めています。

コロナ感染症の影響で「同期会」等の懇親会行事の開催を見合わせている同窓生も多くいるとの情報が入っています。早く普通の生活に戻りたいものです。

「北斗会」事務局 佐々木 正

鳥羽商船高等専門学校

○ 一般教育基礎1の授業で株式会社商船三井による講演会を実施しました

令和4年6月22日（水）に一般教育基礎1の授業として、株式会社 商船三井の現役船長・機関士から海運や船員の生活について、商船学科1年生へ向けにご講演いただきました。お二方とも非常に分かりやすく、また、ユーモアを交えながら楽しく船内生活や職種についてご説明いただきました。



○ 皇學館大学と包括連携協定を締結しました

令和4年6月24日（金）に皇學館大学と鳥羽商船高等専門学校は、教育及び学術研究並びに地域連携上の協力関係を推進するため、包括連携協定を締結いたしました。

本協定は、皇學館大学と鳥羽商船高等専門学校が包括的な連携・協力のもと、文理の枠にとらわれず、分野横断的な視点から、実社会での課題を発見・解決し、新たな社会的価値を創造する資質・能力を持った人材の育成（STEAM教育）を推進することを目的としています。



○ 令和4年度「みえ創業チャレンジスクール」を開催しました

令和4年6月23日（木）に三重県デジタル社会推進局主催の令和4年度「みえ創業チャレンジスクール」が本校で開催されました。

本事業は、これからの三重県を担う県内の学生に創業を身近に感じてもらい、創業に対する関心を促すことで将来の起業家の育成を目的としており、情報機械システム工学科4年生を対象に、株式会社LEO 代表取締役 CEO・武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の栗生万琴教授を講師としてお招きし、ワークショップを行いました。



○ 第57回 全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました

令和4年7月18日（月・海の日）に、池の浦湾で第57回全国商船高等専門学校漕艇大会を開催しました。

当日は爽やかな晴天の下、大島商船高等専門学校を除く4商船高等専門学校のチームが参加し、AチームとBチームに分かれて競い合いました。

各チームの選手は息を合わせ、力の限りオールを漕ぎ、日頃の練習の成果を発揮しました。

熱戦の結果、本校カッター部Aチームと広島商船高等専門学校カッター部Bチームが優勝しました。



○ 鳥羽丸体験航海を実施しました

令和4年8月6日(土)～8月7日(日)にかけて、「鳥羽丸」体験航海を実施しました。

日本全国から34組66名の中学生および保護者にご参加いただきました。

今回は、出入港のスタンバイも参加者に見学していただき、学生の作業風景や航海当直の様子などを見ていただきました。

参加した中学生や保護者に、本校の学生が活躍している姿を見ていただけたのではないかと思います。



○ インターハイに少林寺拳法部が出場！

令和4年7月29日(金)から7月31日(日)に高知県にて開催される令和4年度全国高等学校総合体育大会少林寺拳法競技大会に本校の少林寺拳法部が組演武に2組、団体演武に1組出場しました。

7月26日(火)にインターハイに出場する選手の壮行会が鳥羽市役所で催され、出場する学生7名が鳥羽市長を表敬訪問しました。

また、7月27日(水)に和泉校長へ、大会出場に向けての意気込みを述べ、校長先生から激励のことばが送られました

○ オープンキャンパスを実施しました

令和4年8月11日(木・祝)及び8月12日(金)に本校にてオープンキャンパスを実施しました。

午前の部、午後の部の2部制で開催し、延べ416名にご参加いただきました。

最初にメディアホールにて学校紹介・全体説明を行い、終了後、商船学科希望者と情報機械システム工学科希望者に分かれて、校内施設見

学を行いました。

施設見学では新型コロナウイルス感染症対策のため、少人数のグループに分かれて、練習船「鳥羽丸」見学や、実験室、ものづくり工房などを見学いただきました。

教員や学生の説明を受けて、参加者からは、「資料だけでは分からなかった校内の雰囲気を知れてよかった」との感想もあり、鳥羽商船高等専門学校を知っていただく良い機会となりました。



○ 令和4年度学内研究発表会を開催しました

令和4年8月24日（水）に令和4年度学内研究発表会を開催しました。

今回の発表会は、教員相互の研究内容を紹介することで、今後の科研費などの競争的研究資金や各種財団の助成金への申請における情報共有、教員間での連携を目的として開催されました。

発表の場では、教員が各研究分野の最近の取り組み状況披露及び今後の研究予定紹介が行われました。



○ 三重県と包括連携協定を締結しました

令和4年8月31日（水）に三重県庁において、三重県産業の振興や地域の活性化に貢献する人材を育成するとともに、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力のある個性豊かな地域社会の形成、発展に寄与することを目的に、三重県と包括連携協定を締結いたしました。

三重県とは従前から、農林水産業の振興に関することなどで連携した取り組みを実施していましたが、協定締結を機に防災・減災、スマート技術、DXの推進など一層連携を強化して取組を進めていきます。



○ 第51回商船学科卒業証書授与式並びに第15回専攻科(海事システム学専攻)修了証書授与式を挙行了しました

令和4年9月23日(金・祝)、第51回商船学科卒業証書授与式と第15回専攻科(海事システム学専攻)修了証書授与式を挙行了した。

授与式では、和泉校長から商船学科卒業生36名に卒業証書、専攻科(海事システム学専攻)修了生1名に修了証書と学位記が手渡され、激励の言葉が送られました。

式の最後には、白い制服姿の卒業生全員が一列に並び、「ごきげんよう！」と挨拶。帽子を宙高く投げる伝統の別れのパフォーマンスを実施し、晴れ晴れとした姿で学び舎から巣立っていきました。



○ 令和4年度防災訓練を実施しました

令和4年10月5日(水)に令和4年度防災

訓練を実施しました。訓練は、南海トラフ地震の発生に伴い、津波の恐れがあることを想定したもので、本科1年生から3年生までの学生及び教職員を含め約400名が訓練に参加しました。

学生たちは担任の指示に従い、迅速かつ安全に教室から避難場所のグラウンドへ避難した後、校長からの講評に真剣に耳を傾けていました。



(商船学科航海コース 齊心俊憲 記)

鳥羽商船高専同窓会だより

○ 令和4年度鳥羽商船高専商船学科卒業式挙行

9月23日雨の中、母校において商船学科卒業式が挙行されました。コロナ禍になり、3回目の商船学科の卒業式でした。

ご父兄、教職員、来賓の参加者は昨年より増やされましたが、以前に比べるとまだ寂しさを感じます。

今年の卒業生は、航海コース18名、機関コース19名、専攻科 海事システム学専攻1名が社会へはばたきました。

進路は、海上職26名、陸上職6名、進学6名で全員の進路が決定しました。

今年の求人社数は海上職79社、陸上職393社(工学科系含む)の求人があり、企業にも人気の鳥羽商船高等専門学校です。

また、卒業式前には恒例の同窓会プレゼンテーションが行われ、同窓会の活動紹介を行った後、同窓会から資格取得奨励者への授賞式を行

いました。

1級海技士取得者8名とTOEIC高得点者4名に資格取得奨励賞のお祝いが菅沼会長から贈呈されました。

卒業までの最後の3年間はコロナ禍に巻き込まれ、対面での交流に制限がかかり、部活や授業はリモートが活用され、寂しい青春時代になって可哀そうと思われがちですが、このような経験をこれからの人生の糧として強く生き抜いてほしいと思います。



同窓会本部事務局前フジバカマ
(アサギマダラ蝶プロジェクト)



金毘羅山前フジバカマ
(アサギマダラ蝶プロジェクト)



アサギマダラ

同窓会主体で立ち上げたNPO法人「故郷の海を愛する会」の活動は、今夏休み中のイベントはコロナ感染拡大のため中止しましたが、秋の神島散策と伊良子水道、神島灯台の見学は海上保安庁の協力も得て実施されました。

期待していた渡り蝶の『アサギマダラ』を今年も飛んでいるのを確認し、子供たちの歓声が響きました。

12月には、母校の全面協力を得て母校施設を利用し、小中学生の体験学習を行います。参加してくれる子供たちの何割かが母校を受験し、入学してもらえることを期待しています。

同窓会事務局長 江崎隆夫

広島商船高等専門学校

□ 第48回瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦開催

令和4年6月18日（土）に、本校及び弓削商船高等専門学校を会場として、瀬戸内商船高等専門学校2校定期戦を開催し、各会場で熱戦が繰り広げられました。



2校定期戦開催

□ 夏季オープンスクールを開催

令和4年度夏季オープンスクールを開催しました。

参加者には、初めに視聴覚教室で校長・副校長・学生課長・学生会による全体説明を行いました。



オープンスクール

学生会による説明では、各学科の詳細説明、クラブ活動、学生会活動が紹介され、終了時に参加者から拍手が起きるなど熱心に聞いていただきました。

その後は希望学科に分かれての学科体験、希望者を対象にした個別相談、学生寮見学及び練習船見学を実施しました。

開催にあたっては、学生会役員を始め、多くの本学生の協力のもと、本校の普段の雰囲気をもっと伝えることができたのではないかと思います。

□ 第57回全国高専体育大会卓球競技 男子団体優勝

高知県立県民体育館（高知市）で開催された第57回全国高等専門学校体育大会・第56回全国高等専門学校体育大会卓球競技において、本校卓球部が、男子団体の部で優勝しました。



卓球競技で男子団体の部優勝

□ 第57回全国高専体育大会剣道競技 第3位

とくぎんトモニアリーナ（徳島市）で開催された第57回全国高等専門学校体育大会剣道競技において、本校剣道部が、女子団体の部で第3位に入賞しました。



剣道競技で女子団体の部3位



贈呈式

(藪上 敦弘 記)

□ 商船学科卒業証書授与式を挙

秋晴の候、商船学科卒業証書授与式を挙りました。卒業生代表から、在学中や乗船実習中の思い出とともに、今後社会で活躍するという決意の答辞がありました。

来賓、保護者、在校生、教職員及び、国際信号旗 U・W (U・W 旗掲揚で「御安航を祈る」という国際信号) に見送られ、商船学科航海コース 21 名、商船学科機関コース 21 名が本校を巣立っていきました。



卒業式

□ 油清浄機贈呈式

三菱化工機株式会社様より、油清浄機 (三菱セルフジェクタ SJ35H) の寄付がありました。

この油清浄機は、本校商船学科機関コースの学生実習に利活用することとし、最新型を用いることで運転方法や解放整備の実習を通して、即戦力となりうる船員教育の更なる充実に努めて参ります。

校友会

□ 校友会

1. 2022 年合祀式
今年度もコロナ感染拡大防止の為、中止としました。
来年度は行う予定です。
2. 校友会ホームページ
来年度よりホームページが新しくなります。
3. 校友会名簿
2022 年 6 月現在の名簿を作成しました。
購入希望者はお知らせください。
4. 思い出の広島商船歌船集の CD、DVD
購入希望者はお知らせください。

広島商船高等専門学校校友会

電話 : 0846-65-3899

(月、水、金)

E-mail : koyukai@hiroshima-cmt.ac.jp



大島商船高等専門学校

令和4年7月から令和4年10月にかけて行われた主な式典、教育活動、地域連携活動などを中心に紹介します。

1. 式典・行事

○ 令和4年度卒業証書・専攻科修了証書授与式の挙行

令和4年9月21日（水）、本校は、令和4年度卒業証書・専攻科修了証書授与式を挙行しました。今年度の卒業生・修了生は、本科商船学科37名（航海コース22名、機関コース15名）、専攻科海洋交通システム学専攻1名でした。

古荘校長は、式辞で「社会人として知識・技術・素養の積極的な修得に努め、特に多様性の理解と人とのコミュニケーション、思いやりを大切にしてください。」と祝福・激励しました。

式終了後に卒業生は、出航時の儀式である登樁礼にならって「ごきげんよう」と3回叫び、帽子を高く投げました。

○ 令和4年度専攻科入学式の挙行

令和4年10月3日（月）、大島商船高等専門学校は、令和4年度専攻科海洋交通システム学専攻の入学式を挙行しました。

式辞で古荘校長から、「あなた自身の進路にある目標に向かって攻略するための計画を設定し、基礎を一步ずつ着実に踏み固めながら取り組み、確実に自分の知識と技術を高めることを目標としてください。」と激励の言葉がありました。

続いて専攻科新生が、「将来有為な海事技術者となるため、学則を守り心身を鍛え学業に励むことを誓います。」と宣誓しました。

○ 大島丸の進水式の挙行

令和4年10月13日（木）10時から、三菱

造船株式会社江の浦工場において、新しい大島丸の進水式が挙行されました。

既報のとおり新しい大島丸は、本年3月1日に起工されて以降鋭意建造が進められ、予定どおり進水工程を迎えました。

進水式には各界から関係者約100名が参加し、独立行政法人国立高等専門学校機構の谷口功理事長が「大島丸」と命名した後、同機構大内あづさ事務局長が本船の支綱切断を行いました。



新「大島丸」

2. 教育活動

○ 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム(リテラシーレベル)」に認定

令和4年8月24日（水）付けで、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」に基づき、「大島商船高専数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」が令和4年度「認定教育プログラム（リテラシーレベル）」に認定されました。

本校のこの教育プログラムは、数理・データサイエンス・AI への学生の関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を育成することを目的としており、全学科の学生が対象科目を修得することで修了できます。

本校は、今後も学生の数理・データサイエンス・AI に関する基礎的な能力の向上を図る

機会の拡大に努め、認定校としての役割を果たしていきます。

○ 商船学科4年生校内練習船実習の実施

令和4年8月30日(火)から9月2日(金)にかけて、商船学科4年生が下関港・北九州(砂津港)・徳山下松港・別府港での航海実習を行いました。

関門海峡では逆潮8knotでの航行及び初めての夜間航海を体験し、徳山下松港では港内航路を往復して船舶交通輻輳海域での操船を行いました。

また、下関では三菱造船株式会社下関造船所で代船大島丸の建造見学を行いました。

3. 地域連携活動, 公開講座など

○ 「周防大島海洋環境クルーズ」の実施

令和4年7月28日(木)に、主催：屋代島さとうみネットワーク、協力：国土交通省中国地方整備局広島港湾・空港整備事務所、海辺の会、大島商船高等専門学校による周防大島海洋環境クルーズを実施し、児童、保護者等を含め15名が参加しました。

これは、大島商船高専の実習船「すばる」により、周防大島北東部の海域を航行して、浮遊海ゴミの実態を調査し、岩国沖合にて国土交通省中国整備局が所有する海面清掃船「おんど2000」による、浮遊大型発泡スチロール、流木等の回収作業を実際に見学するものでした。

「おんど2000」の見学ポイントまでは、当校棧橋を出港し、大島瀬戸を通り、1時間程の航行を行いました。途中で潮目に集積する浮遊海ゴミを観測することができました。

そして、岩国沖にて、「おんど2000」からスピーカーにより解説を受けながら、大型浮遊海ゴミの回収作業を見学しました。

また、トランシーバを用いて、その場で質疑応答へのご対応も行って頂きました。そして、帰途にて、また別の場所での浮遊海ゴミの集積状況の観測も行いました。

浮遊海ゴミの実際や専用船による回収につ

いて、海側から体験できる貴重な機会となりました。

○ 「夏休み小学生のための出前授業 in 県立山口図書館～海のゴミについて考えよう～」を実施

令和4年8月4日(木)に 県立山口図書館で開催された、出前授業「夏休み小学生のための出前授業 in 県立山口図書館～海のゴミについて考えよう～」において、本校練習船大島丸 山口伸弥 一等機関士が講師をしました。午前と午後の2回、児童とその保護者合わせて34名の方が参加しました。はじめに図書館の職員の方が海のゴミをテーマにした絵本の読み聞かせを行い、その後本校教員による、海ゴミに関する講義と実験を行いました。実験では発泡スチロールが溶剤をつかって溶けていく様子に子供も大人も一緒に驚いていました。今回の出前授業が海洋環境保全について考えるきっかけになれば幸いです。



図書館の方による読み聞かせ



講義の様子

○ 令和4年度周防大島町との連携協力推進会議の開催

令和4年8月24日(水)、地元周防大島町との連携協力推進会議を開催しました。

これは、連携協力協定を締結している周防大島町と大島商船高等専門学校が、お互いの運営方針・現況について情報交換を行い、行事等における相互協力の推進を目的として、毎年開催しているものです。

当日は、藤本浄孝周防大島町長と本校古荘校長の挨拶の後、周防大島町の現況として、総務部長から町の令和4年度機構改革について、続いて、岡村春雄副町長から町の予算概要および主要事業概要等の説明がありました。

さらに、本校の現況として、石原良晃副校長(教務主事)及び北風裕教地域協力センター長から昨年度の周防大島町との関連事業等の実績報告、入試状況、令和4年度の教務予定、公開講座等の説明を行いました。

その後、大島大橋ライトアップ計画案、災害時の早期避難を促す取り組み、サイクリストのための簡易気象情報システム及び離島の安否情報システムに関する実証実験等について、意見交換を行いました。

○ 令和4年度地域連携交流会総会の開催

令和4年9月14日(水)に令和4年度大島商船高等専門学校地域連携交流会総会が開催されました。

総会では冒頭に山田多加司会長と本校古荘校長の挨拶があり、その後、山田会長が議長となり令和3年度の事業報告、決算報告、監査報告、令和4年度の事業計画(案)および予算(案)の議事について協議が行われ、滞りなく承認されました。

当日は、KOSEN EXPO 2022 とキャリア教育フォーラムのイベント参加に関する案内もあり、地域連携交流会の参加に対するメリットについて、大島商船高等専門学校長の北風先生より説明がありました。

4. 学校 PR 活動, クラブ活動の表彰など

○ 第2回オープンキャンパスの開催

令和4年8月6日(土)、本校にて第2回オープンキャンパスを開催しました。

参加者の方々は事前に申し込んだ学科に応じたグループで半日コースと一日コースに分かれ、実験室見学やPC・ロボットなどを使った体験学習を行いました。

当初は本校学生が各グループを案内する予定でしたが、新型コロナウイルス拡大防止のため、学生ではなく教職員による案内となりました。

山口県内や九州、関東地方等、各都県から223名(うち中学生128名)の方にご参加いただき、新型コロナウイルスの影響のため実施していなかった授業体験なども2年ぶりに実施しました。

○ 第57回全国高等専門学校体育大会出場による激励費授与など

令和4年8月18日(木)、周防大島町役場(小松)にて、第57回全国高等専門学校体育大会出場予定の学生(ソフトテニス部、バレー部、野球部、陸上部、柔道部)に、激励費の授与が藤本周防大島町長より行われました。

9月2日(金)、第57回全国高等専門学校体育大会出場予定の学生(バドミントン部)に、周防大島町全国大会出場者激励費の授与が行われました。

9月14日(水)、第57回全国高等専門学校体育大会出場の学生(水泳部)に、周防大島町全国大会出場者激励費の授与が行われました。

○ 専攻科生が産業応用工学会全国大会2022で受賞

令和4年9月8日(木)に開催された産業応用工学会全国大会2022にて、電子・情報システム工学専攻2年の学生が「空間的情報と動き情報の共起学習によるハンドジェスチャ認識」というタイトルで研究発表を行い、優秀論文発表賞を受賞しました。

本研究は AI によるハンドジェスチャ認識

の精度および組み込み機器上での処理速度を飛躍的に向上させたもので、その点が高く評価されての受賞となりました。

研究成果は、コロナ禍において重要性が高まってきている、非接触型インターフェースへの応用が期待されます。

○本校学生が第1回リバネス高専チャレンジ芝原工業賞(奨励賞)を受賞

電子・情報システム工学専攻 専攻科1年の学生が、第1回リバネス高専チャレンジ芝原工業賞(奨励賞)を受賞しました。

リバネス(Leave a Nest)高専チャレンジとは、優れたアイデアと実装力を持つ高専生を対象に、製造現場をはじめとした実社会で生じる具体的な課題をテーマとして提示し、その解決案を研究テーマとして募集する企画です。この場で生まれた解決策は、実際の現場へと実装され、広く世界で活躍される可能性を秘めています。

○高専ロボコン全国大会に本校Bチームの進出

令和4年10月9日(日)、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022」の中国地区大会が東広島運動公園体育館で開催されました。

今年は、3年ぶりの対戦形式での大会となり、「ミラクル☆フライ ～空へ舞いあがれ!～」と題してロボットが紙飛行機を飛ばして得点を競いました。

本校からは、ロボット研究部Aチームの「O.S.H.I.M.A.(オオシマ)」と、Bチーム「とうきくん」がエントリーしました。共に予選リーグで1勝1敗となり決勝リーグへの進出はできませんでした。

しかし、高い技術力・創造力が認められ、Bチームはデザイン賞、Aチームは特別賞(株式会社安川電機)を受賞し、さらにBチームは独創的な機構が認められ、2014年大会以来8年ぶりに全国大会への出場校推薦チームとなりました。

大会の映像は、11月13日(日)の午後1時5分からNHK総合テレビで放送されるほか、

YouTubeの高専ロボコン公式チャンネルから随時ご覧になれます。

また、全国大会は同年11月27日(日)、東京の両国国技館にて開催されます。

◎おわりに

令和4年8月には夏のオープンキャンパスを実施するなど、コロナ感染症が拡大する前のイベントや各種行事を制限はあるものの実施することができました。

さらに、10月には大島丸の進水式を予定通りに実施することができ、明るい話題も増えてきました。

コロナ禍は依然として続いている状況ですので、皆様におかれましても、健やかにお過ごしなれますようお祈りいたします。

(商船学科 渡邊 武 記)

小松会だより

○「秋晴れの中、大島丸IV世号命名式・進水式、挙行される」

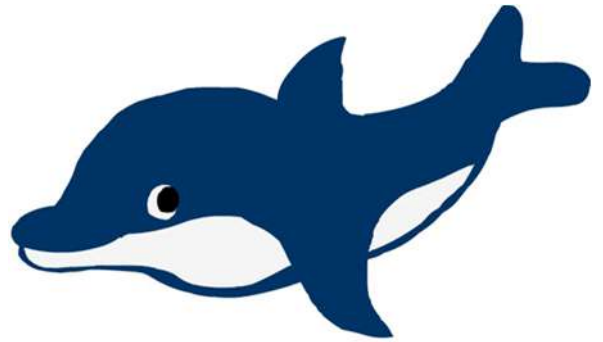
去る10月13日、雲一つない秋晴れのもと、三菱下関造船所江浦工場に於いて、練習船大島丸IV世号の命名式・進水式が挙行されました。

命名式にて披露された船名「大島丸」を揮毫されたのは、独立行政法人・高専機構・谷口理事長。進水式にて支綱切断されたのは同・大内事務局長でした。



命名式・進水式の大島丸

来賓の柳居山口県議会議員、藤本周防大島町、椎木前町長、赤池参議院議員をはじめ、今後建造が待たれる富山高専、広島商船、鳥羽商船各校長も参列いただきました。また、大島商船高専同窓会からは34名の各支部理事も参列いたしました。また、前日から下関実習航海に来ていた本校商船学科5学年の学生諸君（大島丸IV世号の完成を待たず、卒業してしまう）も白い上下の夏制服で同席いたしました。その他たくさんの来賓とともに、校章のついた赤い小旗を振り見守る中、式が晴れやかに挙行されました。



その後、参列した一行のうち70数名は小倉までバスで移動し、小倉リーガロイヤルホテルにて祝賀会が執り行われました。古荘校長の開催の辞を皮切りに来賓の祝辞が述べられ、藤本周防大島町長の乾杯にて和やかに会食が始まりました。



写真は本校同窓会長でもある全船協・広重会長の参加者へのお礼の挨拶のナップです。

会食後、出席者は新大島丸主要目や本校便覧、記念缶バッジ、学生制服袖ボタンを模した「三つボタンクッキー」などが入った同窓会特製トートバックを受け取り、周防大島にて3月に開催されるであろう完成披露式での再会を約して、皆さん笑顔で散会いたしました。



(文責：岩崎寛希)

弓削商船高等専門学校

○練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」を実施

令和4年7月30日（土）、31日（日）の2日間、練習船「弓削丸」による体験航海「一日船長」を愛媛県今治市及び松山市で実施しました。海の日に関連した本校の行事として、毎年開催しているイベントになりますが受付開始から数日で定員の上限に達し、関心や人気の高さがうかがえました。

体験航海は2日間で約50名の親子が参加し、船や海に関わる仕事の説明を受けた後、船内各所を巡るスタンプラリーを行いました。

子どもたちは、ラリーポイントを巡りながらブリッジで舵を取って操船したり、デッキから望遠鏡で遠くの島や船を眺めたりと、それぞれ思い思いに約1時間の航海を楽しみました。

参加者からは「船を操縦できたのが楽しかった」、「学生の方や乗組員の方がたくさん話かけてくださって、いろいろとお話や体験ができ、

有意義な乗船体験になりました」等の感想が寄せられ、高い評価を得ることができました。

また、本校練習船「弓削丸」による体験航海を通じて海事思想の普及を図ることで地域に対して大いに貢献することができました。

○商船学科救命講習(飛び込み)を実施

令和4年7月20日（水）、商船学科1年生と昨年度未実施者を対象に救命講習を実施しました。この講習はSTCW条約の批准に伴う船舶職員法に基づく講習で、海技免許取得のために必要な正式課題の一部であり、必ず受講しなければならないものとなっています。

講習の中で、学生は膨張式救命筏の使用方法や、救命胴衣の着用方法、そして弓削丸からの



飛び込み実習等を実施しました。「万が一の緊急事態に船からの飛び込みを経験していることが命を守ることにつながる」と教員から説明を受け、学生は真剣に実習に取り組んでいました。

○令和4年度商船学科卒業式を挙行

令和4年9月23日(金)、令和4年度商船学科卒業式を挙行し、卒業生27名に卒業証書が授与されました。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染予防対策のため、卒業生、保護者及び教職員のみでの出席とし、座席の間隔を空けるなどの対策を行った上で式典を挙行しました。

石田校長から「海技教育機構の大型練習船実習を終えられ、知識と技能だけでなく、これから社会人として歩いていく上で最も重要な高い人間力を身につけてこられたものと思います。ぜひ、その貴重な経験を忘れることなく、これからも自己研鑽に精進してください。

皆さんは弓削商船高専で学んだこと、そして、この地で学生生活を送れたことに大いに誇りを持ってください」と式辞が述べられ、卒業生は引き締まった表情で聞き入っていました。

続いて、在校生総代の電子機械工学科4年・



上野智貴さんが送辞を述べた後、卒業生総代の江口喬子さんによる答辞が行われました。

最後に、卒業生一同の「ごきげんようー！」の掛け声とともに、全員の制帽が美しく宙を舞い新たな船出に旅立ちました。

○令和4年度専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式を挙行

令和4年10月3日(月)、専攻科(海上輸送システム工学専攻)入学式を挙行し、3名の学生が入学しました。

式では、入学生による宣誓が行われ、その後、石田校長から、「皆さんが身につけなければならない能力には、海運業界のデジタル化に対応できる高度な工学的センスが必要不可欠になるということです。

その点、皆さんが恵まれているのは、本校には工学系の学科があり、生産システム工学専攻もあり、デジタル化に対応できる工学的センスを磨く環境が整っていることです。

是非、こうした教育環境を有効に利用してください」と式辞がありました。

専攻科入学生は慣れ親しんだ学び舎で心機一転、新たな学生生活が始まりました。



○全国高専ロボコン2022四国地区大会 Aチーム「デザイン賞」と「特別賞」受賞

令和4年10月9日(日)、「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022四国地区大会」が新居浜工業高等専門学校第一体育館にて開催されました。今年度は「ミラクル☆フライ ～空へ舞いあがれ!～」と題し、ロボットが紙飛行機を飛ばし、5か所の円形スポット、2か所の縦長滑走路、2種類の筒型ベースの中にランディングさせる競技でした。本校からはAチーム(ロボット研究部)とBチーム(電子機械工学科5年生)の2チームが参加しました。両チームとも予選リーグ敗退でしたが、Aチームは1勝、強豪校と1点差の接戦を争うなど健闘を見せました。表彰式では、Aチームが「バネを使ったシンプルな射出機構のデザインとダントツの命中率」を評価され、デザイン賞と特別賞(牧野フライス製作所賞)を受賞しました。

また、Bチームも特別賞(東京エレクトロン賞)を受賞し、両チームともに審査員から評価されるロボットを製作することができました。



(練習船弓削丸 森瑛太郎 記)

弓削商船高専同窓会

■高校OBチーム対抗ゴルフ大会愛媛県東予予選で優勝!

9月24日(土)、テレビ愛媛主催の第5回高校OBチーム対抗ゴルフ大会東予予選が新居浜カントリークラブで開催されました。

今治支部から弓削商船高等専門学校チームを4名で結成し、18ホールストロークプレー(ダブルペリア方式)での競技に出場しました。

4名の安定したプレーによって見事、優勝をおさめ、11月12日(土)に松山シーサイドカントリークラブで開催される本選へ出場することになりました。

「本選もこの勢いで優勝目指します!!」と意気込みを熱く語ってくれました。

優勝：弓削商船高等専門学校

GROSS: 351 HDCP: 61.2 NET: 289.8 (メンバー)

	GROSS	HDCP	NET
柏木 孝	89	19.2	69.8
越智 加代	86	14.4	71.6
浮穴 智文	87	13.2	73.8
田頭 寿夫	89	14.4	74.6



■ E48 期(高専 12 期)A 組還暦クラス会 in 広島報告

弓削商船高専を卒業し約 40 年、今年で還暦を迎えるクラスメート 14 名が 2022 年 10 月 8 日、広島流川に集合と相成りました。

N、E 合同の還暦同期会の日程がコロナの影響で決まらぬ中、昔から纏まりの良かった我が A 組は、ならばクラス会をやろうかとの話で、浜田君が同窓生に電話連絡、広島に顔が利く主席入学の津国君が、やるなら広島がよかろう！会場は、俺が何とかするとの一声で、とんとん拍子に話が決まり、当日を迎えました。

遠くは、神奈川、名古屋、関西、中四国から指定の店に集合、全員マスク姿で戸惑うも少しずらして顔をみれば、あっという間に昭和 53 年初めて入学で知り合った昔にタイムスリップしたのでした。

卒業以来の再会もあり、長年の風雪に耐えきれず、髪の毛の薄くなった者、砂漠状態の者、黒々と変わらぬ者と皆、外観は多少の変化もありますが、話が弾めば気持ちは青春そのものでした。

その後、2 次会、3 次会と流れてお開きとなりました。

今治に帰り 1 週間後、今治開港 100 周年記念でブルーインパルスが飛来何という偶然、還暦、100 周年、ブルーインパルスと何事もプラス思考で考え我々にとって良い還暦クラス会だったねと写真をグループラインに送ったのでした。古希も元気で再会できることを祈りつつ、報告致します。



■ 同窓会事務局

電話(学校代表) 0897-77-4606

FAX 0897-77-4692

メール info@yuge-kosen.com

同窓会事務担当 田房 友典 (I2 期)



海技教育機構

○ 乗船実習

9月10日 高等専門学校6年生(第51期生)の修了式が執り行われました。

実習生は、7月1日に最終船として銀河丸と青雲丸に乗船してから、相次ぐ『新型コロナウイルス』感染者発生により、幾度となく実習中断を余儀なくされましたが、これを乗り越え、ようやく修了の日を迎えることができました。

今後は、進学や就職など、それぞれの道へ進みますが、これまでの実習で培った技能、課題へ取り組む姿勢、これまで頑張ってきた自分を信じて、これから先の歩みを進めてください。

そして仲間との絆は、きっと皆さんの『宝物』となっているはずです。宝物を末永く、大切にしてください。またいつか、どこかの海上で再会できる日を楽しみにしています。



『銀河丸』10月1日乗船式



『銀河丸』総員退船部署操練の様子

10月1日 高等専門学校4年生(第53期生)は、日本丸(航海科101名)及び銀河丸(機関科84名)に分乗し、5ヶ月間の長期にわたる実習を行っております。

令和5年1月から3月までの乗船実習の予定は次のとおりです。

○ 日本丸

- ・高等専門学校(航海科)4年生
12/19~1/7 神戸、1/21~1/26 鹿児島、
2/8 東京入港、2/10 下船
- ・高等専門学校(航海科・機関科)3年生
3/1 乗船、3/4 東京発、3/11~3/15 別府、
3/20~3/24 神戸、3/29 東京着、3/31 下船

○ 銀河丸

- ・高等専門学校(機関科)4年
12/9~1/7 東京、1/13~1/18 名古屋、
1/26~1/31 広島、2/9 神戸、2/10 下船
- ・高等専門学校(航海科・機関科)3年生
3/1 乗船、3/3 神戸発、3/9~3/14 神戸、
3/18~3/22 横浜、3/28 横浜着、3/31 下船

○ 海事広報活動

1. 長崎ベイサイドフェスティバルにあわせて長崎港に帆船2隻同時寄港(10月27日~31日)

2. 徳山下松港開港100周年記念事業として帆船2隻同時寄港(11月4日~8日)

練習帆船「日本丸」と「海王丸」が、長崎ベイサイドフェスティバル、徳山下松港開港100周年記念事業として、各港に同時入港しました。

寄港中はコロナウイルス感染防止の観点から船内見学は実施できませんでしたが、岸壁では当機構のブースを設けて、船内の紹介ビデオ

や日本旅客船協会「御船印めぐり」プロジェクトに協力して作成されたJMETS コラボバージョンの公式船印帳「日本丸の壱」と JMETS 御船印の販売等を行いました。



【長崎港】イルミネーション点灯



【徳山下松港】入港歓迎式

○ JMETS コラボ船印帳「日本丸の壱」の通信販売を開始

～一般社団法人日本旅客船協会公認「御船印めぐり」プロジェクトに協力～

JMETS は海事思想普及の一環として「御船印めぐり」プロジェクト(<https://gosen-in.jp>) に賛同し、昨年度より公式船印帳「日本丸の壱」(別名「帆船・日本丸」)を練習船の寄港イベントを行う港にて販売していましたが、この度、令和4年10月より公式船印帳「日本丸の壱」の通信販売を開始いたしました。

【御船印とは】

御船印とは、神社仏閣めぐりで集められる御朱印の船バージョンで、各社が船や航路ごとにプリント版、スタンプ版、手書きなどの印を発行し、港や船内などで販売するものです。

この御船印を集める船旅が「御船印めぐり」です。

JMETS では御船印めぐりプロジェクトとの公式コラボ船印帳を発行しています。

公式船印帳「日本丸の壱」は、ホワイトを基調としたカラーリングにコバルトブルーで「帆船・日本丸」を描いています。

○ 船印帳(日本丸の壱) 1冊/2,200円(税込)

ご購入申込みやご購入にかかる注意事項等につきましては、JMETS 通信販売のご案内をご覧ください。

<https://www.jmets.ac.jp/goods/senincho2.html>

※なお、「御船印」については従前どおりイベント会場のみでのお取り扱いとなります。



○ 海技教育機構オリジナルカレンダー2023販売

JMETS では2018年から、練習船や各学校の写真を使ったオリジナルカレンダーを監修しています。今年も実習生、生徒・学生、教職員から応募のあった多くの写真の中から理事長等による写真コンペを経て作り込んだ手作りカレンダー。練習船はもちろんのこと、各地の豊かな風景も楽しめる見どころ満載のカレンダーになっています。

カレンダーの各月には、練習船と各校の月間行事予定が掲載された Web ページにアクセスできる QR コードを配置、最後のページには全校の年間行事予定も掲載しております。

また、この売上げの一部は監修料として

JMETS に還元され、船員教育訓練の充実に充てられます。

JMETS:ホームページ:

<https://www.jmets.ac.jp/news/n-2022102801.html>

発注先: 株式会社 交文社

<https://www.kobunsha-print.com/news/499>

TEL: 03-3267-1225 FAX: 03-3267-3120

値段: 800 円 (税込)、送料別

サイズ: 縦 26 cm×横 36 cm

(広げた時は 縦 51.5 cm×横 36 cm)

【交文社では練習船カレーとコラボしたお得な企画も】

値段: 1,940 円 (税込・送料込)

個別にネット注文する場合と比べ送料 600 円分お得になります。

カレーセット HP: <https://www.kobunsha-print.com/news/502>



○ ご支援のお願い

ご承知のとおり、独立行政法人海技教育機構は、船員養成のため全国 8 校の学校での学科教育と練習船 5 隻による航海訓練を通じた一貫教育の実施に加え、商船系大学や高等専門学校などの船員教育機関の学生に対する航海訓練を通じ、海運業界のニーズに応じた新人船員を養成するとともに、水先人の養成や船員の実務教育を通じた優秀な海技者の養成を行う我が国最大の船員教育機関として平成 28 年に発足しました。

一方で海技教育機構は、非常に厳しい財政事情の中で経営基盤の安定を図り、船員教育訓練をより充実させ、日本を支える優秀な船員の育成に努めるため、令和 2 年度より寄附金制度及び賛助会員制度の本格運用を開始しました。

日本の船員教育のため、皆様のご支援が必要です。当機構の教育・航海訓練・研究業務・海事広報等の活動へのご理解とご賛同をいただき、船員教育機関として、より社会に貢献するためにも、皆様の暖かいご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○ 寄附金制度

海技教育機構では以下の 3 タイプの寄附金制度があります。寄附者は個人、法人を問いません。

- (1) 使途特定寄附金等
- (2) 募集特定型寄附金
- (3) 一般寄附金等

○ 税制上の優遇措置について

海技教育機構は、所得税法施行令第 217 条第 1 項第 1 号及び法人税法施行令第 77 条第 1 項に掲げる「特定公益増進法人」ですので、ご寄附にあたりましては、税法上の優遇措置を受けることができます。

寄附金制度及び賛助会員制度の詳細につきましては、当機構のホームページにてご説明をさせていただきます。

海技教育機構 HP: <http://www.jmets.ac.jp>



企画調整部企画課 間島 良博

第6回 高専・海事教育フォーラム

令和4年度 次世代の海洋人材の育成に関する事業
「海事・海洋分野の人材育成」
「海事・海洋広報活動」

日時：令和5年2月10日（金） 13:30～17:00

会場：神戸国際会議場メインホール

※Microsoft Teams から参加できます。

【参加申込方法】

右下のQRコードまたは申込URLより、参加申込書フォームへアクセスし、必要事項を記入のうえお申込みください。（なお、本方法による申込が難しい場合は【問合せ先】にご連絡願います。）

【申込URL】

<https://bit.ly/kaijiforum2023>

【参加申込期限】 令和5年1月13日（金）

- ※1. 申込みの際に入力された個人情報は、本フォーラム以外の目的では使用しません。
- ※2. Microsoft Teams から参加される方には、別途、接続先をご連絡します。
- ※3. 会場に来場される方には、別途、会場へのアクセス等詳細についてご案内します。



【問合せ先】

〒933-0293 富山県射水市海老江練合1の2
富山高等専門学校 総務課 産学連携・地域連携担当
TEL: 0766-86-5108 E-mail: kikaku7@nc-toyama.ac.jp



主催：富山高専、鳥羽商船高専、広島商船高専、大島商船高専、弓削商船高専

共催：日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会、

海技教育機構、東京海洋大学海洋工学部、神戸大学海洋政策科学部、日本海洋少年団連盟

プログラム

13:30~13:35	開会	富山高等専門学校長
13:35~13:40	来賓挨拶	国立高等専門学校機構
13:40~13:45	来賓挨拶	国土交通省
13:45~13:50	来賓挨拶	文部科学省
13:50~14:00	プロジェクトの概要	富山高等専門学校
「海事・海洋分野の人材育成」 各サブ・プロジェクト報告		
14:00~14:15	海事人材としてのグローバル力向上に向けた教育システムの開発 ①次世代の海洋人材に求められる実務英語教育の体系構築のためのグローバル教育拠点の最適化 ②国際インターンシップをハワイ(KCC)とシンガポール(SMA)において実施	鳥羽商船高等専門学校
14:15~14:31	海事・海洋分野の技術革新に対応した専門教材の開発 ①学力の定着を促進する新しい教材の継続開発 ②海技資格の取得に向けた本質的かつ効率的な学習を実現する支援システムの構築	広島商船高等専門学校 富山高等専門学校
14:31~14:47	学生ニーズに合わせたキャリア教育の実施 ①変わりゆく社会情勢の変化に対応できる自立した人材育成のためのジェネリックスキルの教育の検討 ②連携協力機関の講師による「海事キャリア教育セミナー」の開催 ③「卒業生とのキャリアミーティング」の開催	弓削商船高等専門学校 大島商船高等専門学校
14:47~15:03	海事関連産業と海事教育界との連携強化の実施 ①「船舶管理、港湾・物流業務現地調査」を実施 ②国内外の海事教育機関との連携検討	富山高等専門学校 富山高等専門学校
15:03~15:08	Q&A	
～ 休憩 (10分) ～		
「海事・海洋広報活動」		
15:18~15:23	広報活動概要	弓削商船高等専門学校
各サブ・プロジェクト報告		
15:23~15:33	全国の中学校へ配布する海事紹介ポスターの作成・配布	鳥羽商船高等専門学校
15:33~15:43	5商船系高専における学生主体のWEBによる海事の紹介イベント	弓削商船高等専門学校
15:43~15:53	小中学生向けの社会科の授業に利用できる教材作成 ①小学生の部 ②中学生の部	大島商船高等専門学校 広島商船高等専門学校
15:53~16:03	小中学生向けの練習船体験講座の実施	富山高等専門学校
16:03~16:13	商船系以外の工業系と連携した総合体験型学習イベントの実施(5商船系合同イベント) ①大島商船実施 ②弓削商船実施	大島商船高等専門学校 弓削商船高等専門学校
16:13~16:18	その他 広報イベント 海洋少年団との連携イベント	大島商船高等専門学校
16:18~16:23	Q&A	
16:23~16:48	技術革新や環境対応に適合する海事教育と船員の魅力を伝える広報活動への期待 日本船主協会、全日本船舶職員協会、全日本海員組合、国際船員労務協会、海技教育機構、日本海洋少年団連盟	
16:48~16:55	今後の事業展開について	富山高等専門学校
16:55~17:00	閉会	弓削商船高等専門学校長



本部・支部だより

- 2022/9/21 大島商船高等専門学校商船学科卒業証書授与式にて会長祝辞(広重)
- 2022/9/22 公益財団法人帆船日本丸記念財団青木理事長、村田常務理事来会
- 2022/9/23 鳥羽商船高等専門学校商船学科卒業証書授与式にて会長祝辞代読(菅沼)
- 2022/9/26 広島商船高等専門学校商船学科卒業証書授与式にて会長祝辞代読(望月)
- 2022/9/27 富山高等専門学校商船学科卒業証書授与式にて会長祝辞代読(玉川)
- 2022/9/29 (一社)日本船主協会 森重俊也理事長訪問(広重・加藤)
- 2022/9/29 参議院議員 赤池誠章先生と面談(広重・加藤)
- 2022/10/5 大島商船高等専門学校商船学科長千葉元先生来会(飯島)
- 2022/10/6 令和4年度次世代の海洋人材の育成に関する事業「海事・海洋分野の人材育成事業の実施」第1回運営委員会参加 場所:一ツ橋講堂中会議室(加藤)
- 2022/10/7 富山高等専門学校校長 國枝佳明先生 来会(加藤、飯島)
- 2022/10/11 公益財団法人 海技教育財団 第21回奨学生選考委員会に出席(飯島)
- 2022/10/12 赤池誠章先生は大島商船高専校内視察後、大島商船同窓会懇親会に出席(小倉) (広重、酒迎)
- 2022/10/13 四代目となる新大島丸が「大島丸」と命名され三菱重工業下関造船所で進水式が挙行された。(広重、酒迎)
- 2022/10/19 参議院議員「中西祐介君を励ます集い」場所:憲政記念館(広重)
- 2022/10/19 衛藤征士郎先生 Early Bird Seminar(広重)
- 2022/10/20 みずほ証券 来会(広重、加藤、飯島)
- 2022/10/21 NS ユナイテッド海運 訪問(広重)
- 2022/10/22 2022年度第2回通常理事会が千代田区民館にて開催(広重会長、望月副会長、菅沼副会長、加藤専務理事、玉川理事、酒迎理事、柏木理事、松見理事、田島理事、飯島事務局長)
- 2022/11/16 「高専制度創設60周年記念式典」が開催され、「記念式典」「記念シンポジウム」「一ツ橋講堂」「記念祝賀会」(如水会館)に出席(加藤専務理事・飯島)
- 2022/11/24 赤池誠章先生との面談 大島丸進水式ご出席への御礼言上(広重)
- 2022/11/25 帆船日本丸記念財団 青木 治理事長・村田 信 船長 クラウドファンディング達成のお礼来会(広重、飯島)
- 2022/12/1 商船学科長懇談会 富山:保前先生、鳥羽:窪田先生、広島:濱田先生、弓削:村上先生、大島:千葉先生「和泉橋区民館」にて(広重、加藤、飯島)
- 2022/12/12 弓削商船高等専門学校校内練習船「弓削丸」起工式於:三菱重工マリタイムシステムズ(広重・柏木)
- 2022/12/22 参議院議員中西祐介「日本の国益を考える朝食フォーラム」(広重)

○ 賛助会員の方々に当協会を支援していただいております！

一般社団法人 全日本船舶職員協会

賛助会員名簿 2022年12月現在

広島商船校友会	株式会社ハマテクノサービス
弓削商船高専同窓会	有限会社システムエンジニアリング
北斗会事務局	日本ガスライン株式会社
大島商船高専同窓会	名阪船舶株式会社
鳥羽商船同窓会	戸田汽船株式会社
株式会社コトラシステム	株式会社商船三井内航
北星海運株式会社	菅原汽船株式会社
山友汽船株式会社	神戸マリーン工業株式会社
株式会社B&Sエンタープライズ	株式会社マリントランスシステム
株式会社SEALS	正栄汽船株式会社
栗林商船株式会社	かもめプロペラ株式会社
名古屋メッキ工業株式会社	東興海運株式会社
八馬汽船株式会社	鹿児島船舶株式会社
大四マリン株式会社	撰予汽船株式会社
NSユナイテッド内航海運株式会社	日本船舶表示株式会社
太洋産業貿易株式会社	ダイハツディーゼル株式会社
旭運輸株式会社	三陸運輸株式会社
上野トランステック株式会社	兵機海運株式会社
株式会社 ウシオ	協同商船株式会社
日本栄船株式会社	日本油化工業株式会社
宮城マリンサービス株式会社	

2022 年度会費納入者芳名帳

2022 年 12 月 12 日現在

9 月	武村 泰宏	川越 義人	山本 和之	松村 茂実
個人入金	橋本 禎成	岡田 稔	西本 雅之	木下 健
森成 哲也	西村 臣正	阿久根 浩人	西山 英二	中村 政一
松見 準	堀本 俊幸	谷口 誠	門脇 元	野村 浩久
徳森 生喜	宇高 保	畑内 康孝	原田 圭司	渡邊 歩夢
松本 弘明	桑田 大輝	師富 潤	伴 良造	藤井 一洋
田島 孝一	新田 浩貴	有本 香織	吉村 蔣造	下野 紘史
升田 万寸穂	吉田 康二	田丸 輝大	勝木 輝明	川島 弘行
安藤 来夢	亀井 謙多	濱中 健吾	近藤 武	木下 博
原田 瑛伍	久語 龍摩	風折 正美	吉本 茂正	濱本 奈
菅沼 延之	谷中 和泉	安部 眞一	西谷 直記	渡辺 優作
栗阪 肇	斉藤 美玖	岡田 卓三	西谷 勇二	小島 健次郎
滝口 智	吉原 蒼一郎	加藤 正	直原 正汰	伏見 慎一
鈴木 雅人	野場 修治	荒木 新一	古賀 由佑飛	秋元 光博
佐々木重幸	村田 一明	森 健介	松浦 浩三	山下 栄治
森田 任紀	本望 隆司	角田 和也	新田 泰弘	矢澤 好正
福田 祥司	大原 智喜	古川 洋	谷本 優太	大野 一久
末岡 民行	渡辺 隆彦	堀田 規安	玉川 宏	濱尾 弘宣
橋本 三郎	國武 千歳	小谷 卓哉	井上 健二	武田 康裕
中居 豊平	竹田 英樹	沖本 和也	城戸 裕晶	福田 直倫
伊庭野 紀弘	西 泰浩	文谷 嘉宏	島本 順	片山 隼作
佐尾 治作	秦 眞三	10 月	井戸坂 篤	花澤 利男
吉村 重登	西山 貴治	個人入金	三輪 史郎	岩城 賢太
松田 孝	吉澤 勇	齋藤 香澄	坂井 康寛	萬里小路 弘伸
井波 稔	雲林院 記大	峯 浩	林 和佳奈	中川 敏昭
武田 雄三	野崎 正則	渡部 英利	木場 恭平	須田 浩明
西村 誠	久島 暢赳	長谷川 徹	松岡 理人	松尾 和徳
日朝 俊哉	西山 豊久	新家谷 聰	高野 功	横山 良一
佐野 博	中島 敏行	大下 和義	岩本 利雄	鬼頭 俊介
二川 英樹	舘 満治	寒河江 芳美	齋藤 彰	三浦 大路

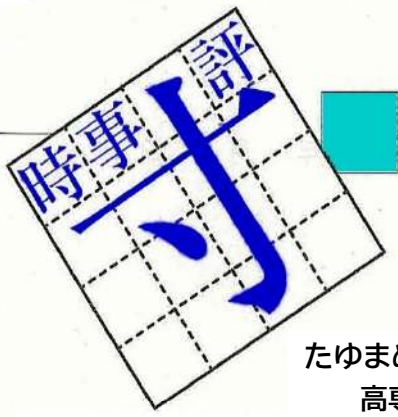
山田 昌利	桑田 慎之介	磯野 達也	藤澤 直樹	北井 君弥
足立 雅俊	町 裕次	工藤 善己	村松 賢一	日本郵船(株)
仁多見 正行	田中 英治	光田 公德	冨田 稔	藤田 繁
田中 健一	二ツ石 聖示	吉村 耀	大澤 博次	泉 良充
竹内 航平	由良 和久	(株)Jマリン	川本康一郎	森川 勉
山縣 俊平	田中 雅大	杉山 博	小山 陽平	大木 昭和
大下 博弥	神田 修二	梶原 仁	山下 裕規	長井 一剛
澤田 敬生	木村 公太郎	佐藤 信義	藤坂 祐介	安井 修三
江種 大宗	内海 真吾	嵐 公司	西岡 圭志	相原 隆志
木元 孝憲	杉本 真吾	1 2月	加藤 健真	一原 勝彦
1 1月	川上 海斗	個人入金	長沼 竜二	芥川 俊久
個人入金	若松 敬史	高岡 俊輔	長尾 徹也	萩原 智昭
中山 隆志	世話人入金	山縣 和也	友光 雄太	藤野 晴久
千道 英雄	山友汽船(株)	川下 尚剛	横田 守弘	杉山 栄作
高垣 毅	望月 正信	世話人入金	山本 将吾	池田 和人
内藤 真世	松林 祐馬	共栄タンカー(株)	石田 宗久	麻生 恵毅
大濱 啓司	北島 章市	佐藤 好司	楠本 竜也	徳田 健二
太田 知孝	川淵 仁	外谷 正彦	鬼頭 和江	鳴海 弘晃
中森 晴雄	長嶋 大介	石田健一郎	原田 信夫	杉山 治
石堂 雅貴	大坪 鴻介	浦田 建	中上 靖教	中原 雅光
衛藤 誠矢	仁井岡友康	中野 寛士	白石 真純	半田 洋樹
東 誠	高田 忍	川崎汽船 (株)	千葉 優太	出口 孝治
金子 俊介	逢坂 武	鍋島 誠	金子 海里	森 光生
山田 青五	吉川 温己	中村 敦也	末永 智之	熊谷 英樹
高村 颯介	豊島 翔馬	阿部 昭敬	田中 拓海	佐々木 努
浅沼 裕	永井 達朗	亀山 真吾	野田 恭平	梶山 勝徳
中川 佳彦	梶原 拓海	足立 吉久	浪切 聡史	堀江 貴義
大木 未来	村上 航	廣瀬 憲博	中野 陽介	岡本 二郎
菅原 央貴	近藤 拓斗	岡本 龍太	宮田 涼一	大下 尚
澤井 建毅	今城 冬哉	西川 信紀	吉永 友安	佐藤 祥二

中西 智章	佐藤 陽登	福井 悟	終身会員
森 団平	溝口 雄基	伊賀 勇治	平野 知洋
岩本 真一	村上 凜汰朗	児玉 賢志	村嶋 秀
冨田 佳彦	原田 亮太郎	間島 崇夫	山口 清
川上 哲治	(株)商船三井	金子 大輔	濱田 雅秀
蔵田 恒志郎	藤川 政良	大宅 理志	舘山 広利
小西 智子	山口 智彦	上井 博明	坂部 正憲
富士 竜太	田村 孝夫	百合野 剛	金山 聡
高橋 英次	和田 雅人	平木 恵介	
菅 篤志	藤井 仁	酒井 勇樹	
應治 俊幸	枝次 真治	濱松 直也	
須磨 秀文	中塚 達也	佐々木 翔輝	
石井 秀典	朝日 健二	漁野 智洋	
笠松 法昭	綱島 毅	廣村 匡俊	
古川 大樹	滝浦 文隆	濱田 祐司	
成田龍之介	竹原 敏宏	松下 薫	
久保 潤一	栗原 誠	河本 優	
岡田 悠紀	橋口 靖生	中尾 拓弥	
神田 和也	萩原 栄二	阿部 誠	
川西 雄太	新田 真一	梅田 尚宏	
鈴木 直	山本 真丈	染矢 真行	
森下 辰郎	鈴木 直也	田川 寛大	
三宅 俊哉	寺西 尚平	渡邊 真史	
小林 佳寛	迫間 利紀人	早柏 隆太	
下田 賢斗	山下 育孝	溝渕真太郎	
山森 大幹	沖原 邦彦	杉野 智	
内山 拓哉	片渕 敏之	宇都宮 直人	
木村 祐太郎	山岡 宣之	田辺 光	
竹俣 多聞	宇佐見航一		
繁岡 潤人	徳山 公彦		

2022 年度新卒及び新入学入会者名簿

2022 年 12 月 12 日現在

富山高専	広島商船高専	北川 美心	浜田 幸佑	川崎 宇庸
土肥 一輝	市川 世羅	世應 航大	福岡 大陸	佐藤 沙耶香
坂本 凜藤	伊藤 楓	田中 新人	松本 大典	高橋 恵
鳥羽商船高専	稲田 玄	田中 咲楽	森 彰太	田中 恭平
竹村 総一郎	榎本 源	田邊 耀司	山本 聖菜	田村 涼晟
上村 アレック	神尾 七星	中沢 陽光	湧川 雄太	寺川 明範
内牧 遼元	坂本 岳人	萩原 慎乃助	芦川 天悠	二宮 一輝
川崎 隆	瀧口 ないき	橋本 力	磯本 幹太	東 数馬
續石 波輝	竹嶋 琳香	濱本 つぐみ	上村 尚希	藤江 那由多
丸山 大輔	鳥居 幹也	藤島 卓弥	岡田 大輝	松本 茂大
三輪 恭也	長尾 英祐	松村 星弥	神代 昌虎	向井 裕太郎
横山 嶺州多	中山 祥吾	萬本 雄飛	高松 駿太	横田 智拓
渡邊 鈴菜	橋本 康平	山本 麻鈴	武内 祐樹	吉岡 祐希
青木 翔	濱本 直弥	大島商船高専	永友 野乃花	寄本 敬一郎
井戸坂 篤	林 巳奈渡	岩城 滉人	西村 光生	和田 一輝
岩城 賢太	藤井 飛雄馬	上田 晴大	野田 良太郎	
緒方 鴻二郎	政木 虎之介	内田 崇太	濱田 彪我	新入学者
川口 夏希	萬谷 優斗	内村 啓斗	古川 雄登	入会追加
小林 駿太	宮前 俊彦	岡本 愛	松本 匠舞	鳥羽商船高専
芝原 聡志	山田 康喜	古田 輝	山本 昂輝	山本 彩華
鈴石 剛琉	山野 薫	國本 悠仁	湯浅 秀仁	藤田 芽依
田中 大暉	横川 愛斗	神戸 金太郎	弓削商船高専	大島商船高専
田中 隆太郎	飯原 祐希	古城 葉月	秋谷 恒太郎	林 拓夢
仲本 翔	内山 栄佑	小林 隼士	石井 照大	弓削商船高専
名古 健人	大串 龍翔	佐藤 次郎	伊藤 耀	村上 銀亮
橋本 大輝	大塚 大聖	佐藤 陸	井上 伸	
林 和佳奈	岡戸 匠	清水 隆之介	魚下 陽生	
松田 章秀	岡野 楽土	芹田 眞光	宇田 稔啓	
松本 隆盛	川井京 美咲	野崎 風土志	岡野 大空	
	河戸 雄太	橋本 一慶	尾崎 瑛汰	



たゆまぬ**挑戦**、飛躍の**高専**！ 高専制度創設60周年

戦後の経済成長に伴い、科学技術の進歩を支える人材を育成する教育機関として1962年に設置されたのが高専だ。当初は12校が開設され工業系の専門学科に限られていたが、少しずつ商船高専や通信分野などを学ぶ電波高専も増えていった。一方で高専の高度化に向けた統合や大学設立に伴う廃止など繰り返し、現在は北海道から沖縄まで国立・公立・私立合わせて57校が存在する。

今春には私立神山まるごと高専が開校し、2027年には滋賀県が県立高専設立のための準備を進めている。

日本船主協会の池田会長は60周年祝辞で、海運業界は現在、GHG排出削減に向けた代替燃料への転換をはじめとした環境問題対応、自動運航船の開発や海洋事業の進出など、大きな時代の変換期にあります。このような変換期にあつて、海事人材に求められる能力の領域は従来に増して幅広くなっています。例えば、海上職員が行う業務は、従来のように単に船上において安全かつ効率運航の達成や陸上における運航管理や船舶管理といった業務に留まりません。今後求められる海事人材は海上職員、陸上職員ともに新しい経営や技術などの領域にも積極的にチャレンジし、企業価値を高める活躍のできる人材です。海運業界は、まさに高専が目標として掲げている『創造性のある実践的技術者の育成』により輩出された優秀な人材の能力を遺憾なく発揮できる最良の業界です。と述べられています。

表紙写真 (公財)帆船日本丸記念財団 帆船日本丸(初代)

本船の要目は、船種：帆船（4 檣バーク型） 用途：練習船
定員：138 名（練習船時代は 196 名） 総トン数：2,278 トン 全長（バウスプリット含む）：97m、
幅：13m、平均喫水：5.3m 総帆数：29 枚（練習船時代 35 枚） 最高マストの高さ：水面から 46m
1930 年(昭和 5 年)1 月 27 日神戸・川崎造船所にて進水 1984 年(昭和 59 年)：引退 2017 年(平成 29 年)に国の重要文化財に指定 横浜市・みなとみらい地区「日本丸メモリアルパーク」で展示・公開中

編集後記

1930 年（昭和 5 年）建造の練習船・帆船日本丸（初代）。1984 年（昭和 59 年）の引退後は「横浜港のシンボル」として、みなとみらいにその美しい姿をとどめています。そんな日本丸には、昭和の船舶無線通信の有り様を今に残す貴重な資料「無線日誌」が数多く保存されています。長年船内で保存されてきましたが痛みが激しく、これ以上損傷がすすむと修復が困難になってしまいます。そこでクラウドファンディング方式で皆さま方のお力をお借りして日誌の修復と船体の維持修繕をめざすことにしました。

「帆船日本丸の航跡を末永く未来へ～船体維持修繕&無線日誌修復プロジェクト～」(寄附募集期間：2022 年 9 月 28 日～11 月 18 日)目標額 300 万円を大幅に上回る 1250 万円を超える支援が集まりました。木製ヤード交換などの船体維持修繕や無線日誌の修復、専用箱の作成などに活用されます。帆船日本丸記念財団に代わりまして、ご支援・ご協力いただいた多くの皆様へ御礼申し上げます。感謝！（飯島・記）

全船協 会報 151号 新春号

2023 年 1 月発行

◇ 発行所：一般社団法人 全日本船舶職員協会 ◇ 編集兼発行人：加藤 信一
〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町三丁目 7 番 12 号 清話会ビル 2 階 B 室
TEL 03-3230-2651 FAX 03-3230-2653

E-mail: honbu@zensenkyo.com URL: <https://www.zensenkyo.com>



Tokyo Bay Licensed Pilots' Association

東京湾水先区水先人会

会長 足立和也

〒231-0023 横浜市中区山下町1番2 パイロットビル(代表) TEL(045)650-3180 FAX(045)663-4811
(オペレーション部) TEL(045)681-4081 FAX(045)681-4090
URL:http://www.tokyobay-pilot.jp TEL(045)681-4091



内海水先区水先人会

Licensed Inlandsea Pilots' Association

会長 高濱洋嘉

〒650-0034
神戸市中央区京町72 新クレセントビル3階
電話(078)332-7191 FAX(078)391-7157
E-MAIL info@inlandsea-pilots.jp

清水水先区水先人会

会長 日比野 雅彦

副会長 鈴木 泰治

〒424-0922 静岡市清水区日の出町10番80号
清水マリンターミナル3F
電話(054)352-2191
FAX(054)351-0527



伊勢三河湾水先区水先人会

ISE-MIKAWA WAN PILOTS' ASSOCIATION

会長 小鹿 邦博

〒455-0032 名古屋市港区入船二丁目4番6号
名港ビルディング 17階
電話:(052)304-8311 FAX:(052)304-8312

関門水先区水先人会

会長 長野 茂夫

〒801-0841 北九州市門司区西海岸1丁目2番13号
電話(093)332-2384(代)

■ センポスの宿・健康診断 ■



一般財団法人

船員保険会

会長 霜鳥 一彦

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷1-5-6
SEMPOSビル 6・7階
電話(03)3407-6061 FAX(03)3407-6597
URL https://www.sempos.or.jp

船舶、船舶装備器具及び部品の販売、輸出。作業船の
賃貸船舶修理、検査工事の請負及びコンサルタント。

K2 シップマネージメント株式会社

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-13-14
パークノヴァ横浜・荻番館306

電話 : 045-290-6082 FAX : 045-290-6916
E-mail : kani@ksh.biglobe.ne.jp



名阪船舶株式会社

代表取締役 高橋 宏之

〒552-0022 大阪市港区海岸通3丁目2番2号
TEL 06-6572-6221 FAX 06-6574-0635
http://www.meihansenpaku.co.jp



Marine Trans System Co., Ltd.

株式会社マリントランスシステム

代表取締役社長 小林 悠

〒104-0031 東京都中央区京橋一丁目1番5号
セントラルビル2階 (fabbit内)
電話 050-3187-3610(代) FAX 03-6629-6290

<北水ブックス> 海で身体のすべてを耳にする

ニシンと鬼ごっこ、マグロを抱きしめる、迷子のウミガメ

漁法や計測に焦点をあてた研究を続けている著者が、感じてきた楽しさはもちろん、つらさ、さみしさも詰め込んだ本。「これから研究者を目指す人たち、海や水産に関わろうとする人たちの気持ちに寄り添って、背中を押したい」「こんな世界や可能性があることを想像してワクワクしてほしい」という著者の気持ちがあふれています。

富安信 著

A5判 128頁 オールカラー 定価 1,980円(税込)



ストーリーで学ぶ安全マネジメント

ある安全担当者の苦悩と成長

多様な産業からメンバーが集まる異業種交流安全研究会の幹事として、専門家と現場をつなぐ活動をしてきた著者が、「物語を読むことで安全マネジメントを身近に感じてもらえたら」という思いで、各産業における実例や、そこからの学び、自らの経験などを、ある安全担当者の成長ストーリーとしてまとめた。基礎が分かり、実践につながる本。

榎本敬二 著

四六判 208頁 定価 1,650円(税込)

〒112-0005 東京都文京区水道 2-5-4
TEL 03-3815-3291 FAX 03-3815-3953

海文堂出版

<http://www.kaibundo.jp/>
e-mail: hanbai@kaibundo.jp

株式会社 コトラシステム

代表取締役 望月正信

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 1-12-13
日本橋鮎佐ビル3階

電話 (03) 3245-6975
FAX (03) 3215-6980
E-mail: cotrasystem@nifty.com

大阪湾水先区水先人会

会長 望月 誠

〒650-0042 神戸市中央区波止場町1-5
電話 (078) 321-7221
FAX (078) 321-5307

宿泊設備 (海員会館) のご案内

ご宿泊・お食事・ご会合に、どなたでもご利用頂けます。

ナビオス横浜

1階 レストラン
Ocean



※写真はイメージです。

ナビオス横浜

3階 バーラウンジ
Seamen's Club



ナビオス横浜
International Seamen's Club & Inn
TEL : (045) 633-6000

川崎海員会館 TEL: (044) 233-5896

イスカル横浜 TEL: (045) 681-2141

イスカル神戸 TEL: (078) 341-0112

一般財団法人日本船員厚生協会 (045) 319-4506

ホームページ <https://www.jswa.or.jp>